平成８年度

臨床経験の授業科目

「教育参加」の開設と学生の反応

信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

ま え が き

附属教育実践研究指導センター長
漆 戸 邦 夫

教員の養成に関わる話題がにわかに盛り上がってきております。教育職員養成審議会は昨年７月、文部大臣の諮問をうけて、教員養成制度の見直しの審議に入っています。また、いじめなど今日のさまざまな教育問題の深刻化に伴い、豊かな人間性や実践的指導力を持つ教員を育てることが緊急で重要な問題であると指摘されております。

そのため教員養成学部においては、学生の実践的指導力を培うカリキュラムの開発を行うことが重要な課題であります。本学が取り組んだカリキュラム改革は、３年次に行う教育実習が唯一の子どもたちと触れ合う機会となっていることに対して、教育実習のみを実践的指導力養成の場と捉えるのではなく、広くさまざまな教育機関での豊かな教育経験も実践的指導力を養成するための基礎となるものと考え、平成７年度に“臨床経験”という授業科目の枠組みをつくり、教育実習と教育実習事前・事後指導をこの枠に組み入れました。さらに、平成８年度から１年生に必修（１単位）で「教育参加」という新しい授業をこの枠組みの中で開講いたしました。

この「教育参加」は、当センターが担当責任母体となり、附属松本学校園、長野県松本盲学校、教育学部松本分室のご協力を得て行うもので、各協力機関の間で連絡会を組織し実施方法等を協議いたしました。各協力機関から、実際に子どもや教師と触れ合うことができる内容の教育活動メニューを出していただき、そのメニューの中から学生が自由に選んで参加するものであります。また、当センターが３年越しに取り組んできた「信大ＹＯＵ遊サタデー」を松本会場で開き、子どもと触れ合う体験の場のメニューの一つとして提供いたしました。とにかく、初めての企画だけにいろいろと心配いたしましたが、関係教育機関の全面的なご協力と学生諸君の前向きな取り組みがあって、無事終了することができました。深く感謝申し上げる次第でございます。学生からも、学生を受け入れていただいた各協力機関からも大変有意義であったとの評価をいただきました。この「教育参加」により、１年生の段階から、子どもや教師や学校への理解がより深められるならば、学生は教師になるために今後どんなことを学ばねばならないかがはっきりすることになり、２年生以降に教科専門科目、教職専門科目、および教育実習を受ける際に、意欲的にこれらの授業に取り組めることが期待されます。

この冊子は、平成８年度に初めて取り組んだ「教育参加」の実践記録であります。学生が実践的指導力の基礎を身につけることができるように企画した、全国にない教育実践例であります。先生方のご批正、ご指導をいただきたいと存じます。

目　　次

まえがき　　附属教育実践研究指導センター長　漆戸邦夫 ----- 1

目　次 ---------- 2

「教育参加」のもたらすもの　教育学部附属松本地区学校園長　吉本隆行 ----- 4

1．「教育参加」の授業づくり ---------- 5
(1)「教育参加」の構想と授業開設準備 ---------- 5
(2)平成８年度「教育参加」実施計画 ---------- 9
(3)各学校の教育活動への「参加」メニュー ---------- 11
①附属幼稚園 ---------- 11
②附属松本小学校 ---------- 12
③附属松本中学校 ---------- 13
④長野県松本盲学校 ---------- 15
(4)３年次生による教育実習の「参観」日程 ---------- 16
(5)第10回信大ＹＯＵ遊サタデーの「ふれあい体験」講座 ---------- 17
(6)多メニュー選択履修の「教育参加」を支える教務データベースの構築 ----- 18
(7)「教育参加」に関する連絡先・方法 ---------- 19

2．各学校における実施内容・反省・課題 ---------- 20
(1)子ども達は、いないんですか？　（附属幼稚園） ---------- 20
(2)幼稚園だよりに紹介された学生の活動の様子 ---------- 21
(3)「教育参加」報告　（附属松本小学校） ----- 24
(4)展望の開けてきた教育参加　（附属松本中学校） ----- 25
(5)本校における教育参加－１年目にして大きな存在－（長野県松本盲学校） -- 26

3．313名による全体会の授業内容と学生の反応 ---------- 27
(1)第１回全体会（４月19日） ---------- 27
(2)第２回全体会（５月24日） ---------- 29
(3)第３回全体会（６月21日） ---------- 31
(4)第４回全体会（７月12日） ---------- 33
(5)第５回全体会（10月３日） ---------- 34
(6)１年生の教職に関する意識調査 ---------- 36

4．「教育参加」を履修した学生の活動事例 ---------- 38
(1)各学校の教育活動に「参加」した１年生の反応 ---------- 38
①附属幼稚園の「落ち葉はき」に参加した学生 ---------- 38

②附属松本小学校の「学習指導研究会」に参加した学生 ---------- 39
③附属松本中学校の「ミシンの整備と説明書づくり」に参加した学生 ----- 40
④長野県松本盲学校の「予備登山、本登山」に参加した学生 ---------- 41
⑤附属松本小学校の「秋の遠足」に参加した学生 ---------- 42
⑥附属松本小学校の「運動会の係り活動」に参加した学生 ---------- 42
⑦附属幼稚園の「お誕生会」に参加した学生 ---------- 43
⑧附属松本中学校の「演劇の大道具作り」に参加した学生 ---------- 43
⑨長野県松本盲学校の「バレー部の活動」に参加した学生 ---------- 43

(2)3年次生による教育実習を「参観」した1年生の反応 ---------- 44
①附属松本中学校で数学の授業を参観した学生 ---------- 44
②附属松本小学校で国語の授業を参観した学生 ---------- 45
③附属幼稚園で保育を参観した学生 ---------- 46
④附属松本小学校の教育実習を参観した学生 ---------- 47

(3) 第10回信大ＹＯＵ遊サタデーで「ふれあい体験」を経験した1年生の反応 -- 48
①「学校では教えてくれないマル秘化学実験」に参加した学生 ---------- 48
②「とびだす紙しばい」に参加した学生 ---------- 49
③「イラスト・マンガ」に参加した学生 ---------- 50
④「でっかいでっかいシャボン玉を作ろう」に参加した学生 ---------- 51

5．教育学部松本分室の1年生副担任教官による評価 ---------- 52
(1)「教育参加」の意義の確認 ---------- 52
(2)「教育参加」の評価方法について ---------- 52
(3)学生の真剣な参加態度 ---------- 53
(4)豊かな情操と高い知性への自覚 ---------- 54
(5)「教育参加」雑感 ---------- 54
(6)「教育参加」への期待と課題 ---------- 55
(7)第3の眼 ---------- 56

6．日本教育大学協会研究集会での研究発表 ---------- 57

7．「教育参加」について報道された新聞・雑誌記事 ---------- 62

あとがき ---------- 72

「教育参加」のもたらすもの

吉本隆行（教育学部附属松本地区学校園長）

レースにおけるスタートの善し悪しは、その後の経過に重要な影響を与えます。教育実習におけるスタートが順調に切れるか切れないかは、それまでの準備が重要なポイントとなるでしょう。その準備の一つは事前指導ですが、ここにもう一つ、新しく「教育参加」が加わることにより、教育学部での勉強に方針が定まっていくものと期待されます。

「教育参加」は、松本地区に学ぶ教育学部の学生が、同地区の附属学校園及び県立松本盲学校、またＹｏｕ遊サタデイ等の教育活動に参加し、子供と触れ合いを持つ中で、子供との基本的な関わり方を考える画期的な授業であります。

信州大学ではこれまで、教育学部に入学した学生が子供と直接触れ合うことができるのは、３年次の教育実習の時のみでありました。しかし、今年度から「教育参加」が開設され、１年次生が松本地区の附属学校園及び県立盲学校の教育活動に参加できるようになりましたことは、教育学部生にとって大変意義深いことであり、一方、松本地区の附属学校園の存在意義も高まり、大変喜ばしいことであります。

現在、教育学部に所属する65％前後の学生は教師になることを希望しています。折角その希望を持ちながら、直接専門教育に関する教科はほとんど履修されないまま１年間を過ごしていました。彼ら自身、自分が一体何学部の学生か解らない１年間であったと感想を書いた学生が何人かいたことを思い出します。

学生たちが教育活動に参加した後の感想文中に、子供たちとの触れ合いの中から、子供の純真さ、優しさに接し、また子供たちから尊敬され、慕われている先生の姿を目にし、子供たちが一心不乱に物事に打ち込む姿等に感動しています。そして、良い先生になるために、これからの授業に打ち込もうとする決意に結びつけていたこと、また、異口同音に教師への志願が強まったとか、教育実習までになんとかしなければとか、今後に大きな励みになったとか、実習に希望がわいてきたとか、彼らが教育に真正面から取り組もうとする思いを確かめ、これからの方針を彼らなりに持てたことは、これまでの１年次生には経験することの出来なかった貴重な体験でありました。

第１年目の今年度は大きな事故もなく、反省会も良い方向として結論が出されました。このような形で終了できましたことは、これに直接関わられた附属教育実践研究指導センターの先生方、ご多忙な中を快く受け入れて下さった附属松本学校園及び県盲学校の諸先生方のきめの細かい、暖かいご指導のお陰でした。

しかし、この試みはまだ始まったばかり、今までの関係者のはかりり知れないご苦労も、今後さらに「教育参加」を充実させていく中で、継続してゆくものと思われます。今後の成果を期待しつつ、唯々、感謝多謝でありす。

1．「教育参加」の授業づくり

(1)「教育参加」の構想と授業開設準備

土井進（附属教育実践研究指導センター）

1．「教育参加」の構想

附属教育実践研究指導センターは、1992年（平成４年）４月に発足した。この長い名称をもった附属施設は一体何をする処なのか、そこでの研究や教育の中身はなかなか見えてこなかった。その結果、この長い名称を英語で表現するとどうなるのか、という問題に直面した。先ず、次のような案が考えられた。

Center for Educational Research and Practices

Center for Research and Instruction of Educational Practice

Center for Research and Guidance of Teaching Practice

しかし、いずれも教員養成学部における「実践」の持つ内実に肉薄する響きが感じられなかった。そこで専門家の示唆を得て、最終的に

Center for Educational Research and Training

Faculty of Education , Shinsyu University

と命名することになった。このTrainingに込められた「実践」をどのようにカリキュラムとして具現化するか、１年次生にふさわしい教育実践とは何か、教育学部と附属学校園との共同研究をどのように深めていけばよいのか、４年一貫カリキュラムにおける臨床経験の配置をどのようにするか等々に思いをめぐらしながら「教育参加」の構想が練られていった。

教員養成におけるキーワードの一つとなった実践的指導力や実践的力量とは何か、という問題も英語ではどう表現するのか、と考えたときに明確な概念規定が求められてくる。この点について私は、次のように考えている。

Training for Practical Teachig Skills and Qualities

このような理解に立つとき、実践的指導力とは実際に行われている教育実践の場に入って、子どもや先生と関わる体験的活動を通して身につけるのが適切であると考えられる。学生がこのような体験をとおして体得する事柄は、教育の技術面はもとより、それ以上に優れた教育技術に裏打ちされている深い人間観や教育観、子ども観にふれて、人間的資質の重要性に気づくことであると考えられる。「教育参加」の授業は、教員養成において不可欠な専門的力量の形成と人間的資質の向上の両面を視野において、構想されていかなければならないと考える。

2．「教育参加」連絡会での授業開設準備

【第１回「教育参加」連絡会】

平成７年12月14日（木）10:00～11:30、信州大学共通教育センター、職員研修室において開催された。出席者は吉澤文雄、上條厚、山崎達朗、徳井厚子、駒村哲、中村正人（以

上教育学部分室教官）、小口正行（附属松本学校園長）、木村清彦（附属学校園副校園長代表）、小林賢一（附属松本小学校園副校園長）、山崎直樹（附属松本中学校副校長）、漆戸邦夫（附属教育実践研究指導センター長）、土井進（センター専任教官）であった。この会議において次のことが話し合われた。

○議長は附属教育実践研究指導センター長がつとめ、議事録は同センターにおいて作成し配布する。

○始めに「教育参加」開設の経緯について、教育学部における４年一貫カリキュラムをより充実するための「臨床経験」の新設授業科目について、教科教育委員会等での検討を経て、平成７年11月１日の教授会において、附属教育実践研究指導センターが担当機関となる「教育参加・観察（仮称）実施計画（案）」が原案通り承認されたことが報告された。

○授業科目名を「教育参加・観察」（仮称）から「教育参加」“Teaching Experience”とすることに決定された。

○「教育参加」の意義と目的について附属学校園側から、教育実習生は教科指導よりも子どもたちとどのように関わればよいかに不安を抱いて教育実習に入ってくる。１年次において子どもたちと関わる経験をしておくことは、教育実習にもスムーズに入ってこれるのではないかと考えられるので、この授業の意義と目的に賛成であるという意見が述べられた。

○授業計画について、附属松本校園においては「教育参加」のために特別の授業を設ける必要はないことが確認された。

○学生の安全について、登山や水泳、ソフトボール等の教育活動に学生が「参加」していて万が一事故が起こった場合の対処について、傷害保険への加入など学部が責任をもって対応することが確認された。

○学生が教育活動に「参加」するための事前指導が必要な場合は、各学校において関係教官によって実施され、学生への連絡は実践センターが担当することが確認された。

【副担任教官との「教育参加」反省会】

授業計画の８割近くが進行したところで、教育学部松本分室の１年生副担任教官と附属教育実践研究指導センター教官との「教育参加」反省会が、平成８年11月７日（木）16:20～17:30、信州大学共通教育センター職員研修室で行われ、次のことが話し合われた。

○カリキュラム上の問題点について。学生が「参加」するメニューを土曜日や８月、９月にできるだけ多く開設していただけるように各学校の協力をもとめ、大学の共通教育における二重履修の問題がおきないように努力する。しかし、学生が希望する“子どもとふれ合うことができる”メニューの中には、　ウィークデーを避けられないものもあり、共通教育運営委員会に事情を説明する必要がある。また、学校教育機関だけでなく社会教育施設で土曜日・日曜日に実施されている教育活動にも学生が「参加」できるように開拓の努力をしていく必要がある。

○「教育参加」の評価については、８人の副担任が学生のレポートを評価し、これに授業への出席回数等を総合して実践センター教官が評定し、さらにこれについて副担任が確認し、問題があれば協議することになった。また、レポートの評価については教官によ

る個人差が表れることが予想されるが、学生に示した評価基準をもとに、この授業の目的に照らして、各教官の判断によることとした。

【第２回「教育参加」連絡会】

平成８年11月21日（木）16:20～17:30、信州大学共通教育センター第２会議室で開催された。出席者は吉本隆行（附属松本学校園長）、塚本節子（附属幼稚園副園長）、小林賢一（附属松本小学校副校長、附属学校副校園長代表）、堀内泰（附属松本中学校副校長）、宮島重光（長野県松本盲学校長）、山崎達朗（教育学部松本分室教官）、漆戸邦夫（附属教育実践研究指導センター長）、土井進（センター専任教官）であった。この会議において次のようなことが話し合われた。

○学校行事を中心に「参加」してもらったが、普段の授業の時に来てもらうのも良いのではないか。また、長野地区の附属学校での教育実習の参観なども今後検討して欲しい。

○教育実習の参観は効果が大きく、大変有意義である。登山やクラブ活動への参加は大変効果的であった。ＹＯＵ遊サタデーはすばらしい実践であった。

○雨天等で日程が変更したことがあったが、学生の中には連絡方法を把握していないものがあった。連絡体制をきちんとして欠席連絡もとれるようにしていきたい。

○学生には時と場合に応じた服装ができるようになって欲しい。４月のオリエンテーションの時に十分指導していきたい。

○学校を訪問したときの挨拶や職員室への出入りの礼儀作法など、基本的なことができない学生があった。１年生のうちにこの授業をとおして学生の指導に当たっていきたい。

○平成９年度「教育参加」には、国立高遠少年自然の家の教育活動をメニューに加えていく提案が了承された。

○平成９年度「教育参加」実施計画（案）が了承され、今後、実践センターの常任委員会、運営委員会に諮り決定することになった。

３．専門系科目の中に「臨床経験」の枠組みを設定

さて、「教育参加」という授業が教員養成学部の授業科目として成立し得たのは何故であろうか。本学部での授業科目は、教育職員免許法及びその施行規則に基づいて開設され、学生が履修しなければならない科目数は非常に多い。教免法改正に伴い「教育実習事前・事後指導」（１単位必修）を平成５年度に開講することになった時も、正規の時間割の中に入りようがないので、休日となった土曜日に開講せざるを得なかった。今回の「教育参加」も平成７年度以前であったなら、ぎっしりと詰まっている教員養成カリキュラムの中にとても入る余地はなかったと思われる。しかし、平成６年度をもって教養部が廃止され、教育学部においては平成７年度から生涯スポーツ課程が発足し、４年一貫カリキュラムが検討される中で、「臨床経験」という名称の専門系科目の枠組みが新設された。そして、「教育実習」と「教育実習事前・事後指導」がこの枠組みの中に移行されることになった。このような教員養成カリキュラムにおける新しい枠組みの設定が１年生を対象とする「教育参加」の成立を可能にしたと考えられる。

このことは教育課程一覧表に示されている卒業用件の新旧を比較対照するとわかりやすいと思われるので、次に掲げておきたい。

III. 各課程別の履修のしかた

第1章　小学校教員養成課程

卒　業　要　件（平成8年度入学生用）

	区分	科目	修得すべき最低単位数	履修方法	備考
基幹科目	教養科目	個別科目：人文科学・社会科学・自然科学（3分野にわたって）	12	1年次に履修 社会科学のうち日本国憲法2単位必修	
		総合科目	6		
	外国語	外国語（英語） 外国語（独・仏語等）	6	専攻別　国 社 数 理 音 美 体 技 家 教 心 1年次履修　4 1科6 2 4 2 2 2 2 4 2 6 2 目 4 2 4 4 4 4 2 4 0	外国語の履修方法については各専攻の指導事項を参照
		外国語（英語）	2	2年次に履修	
	保健体育	講義	2	1年次に履修	
		実技	1	3年次に履修	
	情報教育・新入生ゼミ・日本語・日本事情		2	新入生ゼミを履修すること	
	計		31		
専門系科目※	教科に関する科目	国語	2	1年次～4年次に履修 1年次に「教科に関する科目」として専門工の国語，社会を2単位ずつ履修することが望ましい。	各専攻の指導事項を参照
		社会	2		
		算数	2		
		理科	2		
		生活	2		
		家庭	2		
		音楽	2		
		図画工作	2		
		体育	2		
		計　9教科	18		
	教職に関する科目	第I領域（教育の本質及び目標） 第II領域（心身の発達及び学習の過程） 第III領域（制度的，経営的事項） 第IV領域（教育の方法及び技術）	12	各領域最低2単位必修。ただし，4単位までは「教育実践科学専攻，心理臨床専攻所属学生に関する専門教育科目」の演習以外の授業題目の単位をもって，これにあてることができる。	第I，第III，第IV領域で2単位以上履修する場合は，A～Dの符合が付いた授業を先に履修すること
		道徳教育	2	2年次～4年次に履修	
		特別活動	2		
		生徒指導	2		
		教科教育法	18	9教科　各2単位	
		計	36		
	臨床経験	臨床経験	8	1年次に「教育参加」を履修すること。 3年次に「教育実習事前・事後指導」，「教育実習」を履修すること。	
	卒業研究	卒業研究	6	4年次（指導教官のもとで行う）	
		計	14		
	共通専門科目		2	授業科目「コンピュータ利用教育」必修	
	自由選択		28	一年次の専門工，「パフォーミングアーツ論」「人権教育」「社会福祉学」については，各専攻の指導に従うこと。	
	合計		129		

卒　業　要　件（平成5年度，平成4年度，平成3年度，平成2年度入学生）

履修規程第5条，第7条2項，第8条第2項及び第10条に基づき，4年以上在学し，以下の表に従って所定の単位を修得した小学校教員養成課程の学生に，卒業資格を与えるものとする。

	科目	修得すべき単位数	履修方法	詳細ページ	備考
一般教育科目	一般教育	36	教養部で履修		
	保健体育科目	2⅓			
	外国語科目（英語）	4			
	外国語科目（独語・仏語・中国語・ロシア語・ハングル・スペイン語）	4			
	外国語科目（英語）	4	（2年）	5	
	保健体育科目　講義	1	（3年）		
	実技	⅔			
	計	52			
教職専門教育科目※	教育の本質及び目標に関する科目〔第I領域〕	12	第I領域から第IV領域までの各領域にわたって履修すること（各領域最低2単位必修）。ただし，4単位までは，「教育実践科学専攻・心理臨床専攻所属学生に関する専門教育科目」の演習以外の授業科目の単位をもって，これにあてることができる。	5～6	第I，III，IV領域で，同一領域内で2単位以上履修する場合は，A～Dの符号が付いた授業を先に履修すること。
	幼児・児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目〔第II領域〕				
	教育に係る社会的，制度的又は経営的な事項に関する科目〔第III領域〕				
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に関する科目〔第IV領域〕				
	道徳教育に関する科目	2		7	
	特別活動に関する科目	2			
	生徒指導及び教育相談に関する科目	2			
	教科教育法に関する科目	18	国語・社会・算数・理科・生活　家庭・音楽・図画工作・体育　各2単位	8	
	教育実習（事前・事後指導を含む）	5	3年次，6週間，附属学校で行う。別に事前・事後指導を行う。	56参照	履修資格については，「履修規程」第16条，及びその内規を参照
	計	41			
教科専門教育科目	国語	2	体育基礎（1単位），体育方法（1単位）	9～10	
	社会	2			
	算数	2			
	理科	2			
	生活	2			
	家庭	2			
	音楽	2			
	図画工作	2			
	体育	2			
	計	18			
教職に関する科目及び教科専門	自由選択科目	19	第4年次に指導教官のもとで行う。		
	卒業研究	6			
	計	25			
	合計	136			

（2）平成８年度「教育参加」実施計画

１．授業題目

平成８年度に松本で新設する授業は、専門科目Ｉ（科目）として、「臨床経験」（授業科目）の中に位置づけ、「教育参加」“Teaching Experience”（授業題目）と称する。

２．「教育参加」の意義と目的

「教育参加」は、“教育”に関心を抱いて教育学部に入学した１年次生が、

① 附属松本学校園、長野県松本盲学校で行われている教育活動にボランティアとして参加すること。

② 附属松本学校園で行われる３年次生による教育実習を参観すること。

③ 上級生が地域社会の子どもたちを大学キャンパスに迎え、「遊び」や「学び」の体験学習を指導する「第10回信大ＹＯＵ遊サタデー」に参加して、子どもたちとの触れ合いを体験すること。

を通して、子ども理解、教師理解、学校理解を深め、“教育”への意欲・関心を高めることを目的とする。

１年次において、教育活動の実際場面に参加したり、３年次生による教育実習を参観したり、子どもとの触れ合いなどを体験することは、一人ひとりの学生が“教育”への自覚を深め、４年間にわたって教科専門科目、教職専門科目、教育実習等を履修していく上での基礎力となるものと考えられる。

３．「教育参加」の基本方針

(1) 担当機関は附属教育実践研究指導センターとする。

(2)「教育参加」連絡会において実施計画案を策定し、実践センターの常任委員会、運営委員会の議を経て決定する。

(3)「教育参加」連絡会の構成員は次の通りとする。附属教育実践研究指導センター長および専任教官、教育学部分室教官代表および分室全教官、附属松本校園長、附属学校園副校園長代表,附属松本小学校園副校園長,附属松本中学校副校長,長野県松本盲学校長.

(4)「教育参加」は、教育学部教官、同分室教官、附属松本学校園教官、長野県松本盲学校教官の協力を得て実施する。

４．「教育参加」の実施方法

(1) 実施対象：平成８年度入学の１年次生（全課程３００名）

(2) 実施時期：通年、変則集中 （金曜５コマ目、第２土曜日、夏季休業中、空き時間）

(3) 単位認定：小・中・養・幼課程は必修科目、生涯スポーツ課程は自由選択科目。

「参加」レポート、「参観」レポート、「触れ合い体験」レポート、出欠状況によりセンター専任教官が認定する。

(4) 実施方法：「参加」は、次の中から１つを選択必修とする。（ただし、支障がない場合は２つ以上選択しても構わない。）

①附属幼稚園の教育活動、②附属松本小学校の教育活動、③附属松本中学校の教育活動、④長野県松本盲学校の教育活動

「参観」「触れ合い体験」は、次の中から１つを選択必修とする。（ただし、支障がない場合は２つ選択しても構わない。）

①附属松本学校園での３年次生の教育実習 ②第10回信大ＹＯＵ遊サタデー

5．「教育参加」の授業計画

	月　日	授　業　内　容	実施場所	担　当　者
ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	4/19(金) (5ｺﾏ目) (16:20～ 17:50	「教育参加」の趣旨 「参加」・「参観」・「触れ合い体験」の内容紹介 諸書類への記入	２０番教室	センター長、専任教官 附属幼・小・中教官 長野県松本盲学校教官 教育学部分室全教官
全体会	5/24(金) (5ｺﾏ目) 6/21(金) (5ｺﾏ目) 7/12(金) (5ｺﾏ目)	「参加」の調整・相談（１） 「参加」の調整・相談（２） 「参加」「参観」「触れ合い体験」の調整・相談（３）	２０番教室	センター専任教官 教育学部分室全教官 （１年生副担任） 信大YOU遊ｻﾀﾃﾞｰ実行委員会の上級生
参加	通年	附属幼稚園の教育活動 附属松本小学校の教育活動 附属松本中学校の教育活動 長野県松本盲学校の教育活動	附属幼稚園 附属松本小 附属松本中 松本盲学校	附属幼稚園教官 （センター専任教官） 附属松本小学校教官 （センター専任教官） 附属松本中学校教官 （センター専任教官） 県立松本盲学校教官 （センター専任教官）
参観	8月20日 ～ 8月31日	附属幼稚園での教育実習 附属松本小学校での教育実習 附属松本中学校での教育実習	附属幼稚園 附属松本小 附属松本中	附属幼稚園教官 （センター専任教官） 附属松本小学校教官 （センター専任教官） 附属松本中学校教官 （センター専任教官） １４専攻の参観教官
触れ合い体験	10/2(水) (5ｺﾏ目) 10/11(金)(5ｺﾏ目) 10月12日 9:00～ 12:00 13:30～ 15:30	キャプテン・スタッフ打合せ 参加者確認、教材確認 前日準備 会場設営、最終打ち合わせ 第10回信大ＹＯＵ遊サタデー 15講座開講、１講座定員20名 上級生と１年生によるﾃｨｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞ　反省会（１年生・上級生・教官）	２０番教室 第２講義棟 体育館 グランド等 第２講義棟 体育館 グランド等	センター専任教官 YOU遊ｻﾀﾃﾃﾞｰのｷｬﾌﾟﾃﾝ 教育学部分室教官 教育学部分室教官 センター長、専任教官 （１４専攻教官の指導）

（３）各学校の教育活動への「参加」メニュー

①附属幼稚園の「参加」メニュー

NO.	活動名	内容	期日	時間	人数	備考
1	春の遠足	遠足引率	５月９日（木）	9:00~2:00	１５人	年長・年中・年少の3つに分かれて行います。
2	こいのぼり運動会	前日準備	５月29日（木）	3:30~5:30	１０人	テント張り、グランド整備、座席作り、表示案内といった仕事をおこなう。（子どもはいない）
3		当日の係活動	５月30日（金）	8:50~12:00	２５人	用具の出し入れ、子どもたちの保育をする。
	誕生会	誕生会参観	６月21日（金）	10:35~11:00	１０人	誕生会での子どもの様子を参観する。
5		〃	７月22日（月）	〃	〃	〃
6		〃	９月27日（金）	〃	〃	〃
7		〃	10月31日（木）	〃	〃	〃
8		〃	11月22日（金）	〃	〃	〃
9		〃	12月25日（水）	〃	〃	〃
10		〃	１月27日（月）	〃	〃	〃
11		〃	２月28日（金）	〃	〃	〃
	保育参観	教育実習中の実習生の保育を参観	８月20日（火） ～ ８月29日（木） 但し24、25、27日を除く	9:00~11:50 12:40~2:15	２０人	教育実習中の教生が行なう保育の参観を通して、実習生や子どもたちの動きを観察する。
12	秋の運動会	前日準備	９月11日（水）	3:30~5:30	１０人	テント張り、グランド整備、座席作り、表示案内といった仕事を行う。（子どもはいない）
13		当日の係活動	９月12日（木）	7:40~11:30	１０人	用具の出し入れ、子どもの保育、後片付け。
14	幼年教育研究会	幼年研に向けての準備	10月７日（月）	3:30~5:30	２０人	池の掃除、砂場の整地。（子どもはいない）
15		前日準備	10月18日（金）	１:30~3:30	１５人	窓拭き、保育室ロッカーの整理。
16		研究会参加	10月19日（土）	8:30~3:30	何人でも可	研究会に参加し、子どもたちの様子を参観する。
17	学習指導研究会	小学校での内容に準ずる	1月17日（金）	8:00～5:00	20人	受付5人は女子 研究会参加は何名で何
	落ち葉掃き	園舎周辺の落ち葉掃き	11月７日（木）	2:30~3:30	１０人	園舎周辺の環境整備（子どもはいない）
19			11月15日（金）	〃	〃	〃
20			11月19日（火）	〃	〃	〃
21	年長交通安全教室	交通安全教室に参加する子どもの世話。	２月５日（水）	９：20~11:00	５人	交通安全教室における道路での安全確認。待機している子どもたちの世話。

② 附属松本小学校の「参加」メニュー

No.	行事・活動名	内　　容	期日・時間	人数	備考
1	運動会前日準備	トラック作成、テント張り装飾（万国旗張り、看板付け等）を係の児童、教師と共に活動する。	9月7日（土）後1時～4時	10	
2	運動会当日	係活動、競技等の準備・補助参加、後かたづけ等を係の児童、教師と共にかつどうする	9月8日（日）前7時～後4時	20	
3	秋の遠足	8～9コースの目的地への安全な引率と目的地で児童との遊び等をする。	10月14日（月）前8時～後4時	30	
4	幼年教育研究会前日準備	研究会場の準備を児童・教師と共に行う。（机・椅子等の運搬や駐車場、受付、授業会場・研究会場の作成及び清掃等）	10月18日（金）後1時～4時	20	
5	幼年教育研究会当日	受付、案内、会場作成、駐車場案内誘導等を行うと共に、研究保育や研究会に参加して研究会の様子等を感じとる。	10月19日（土）前8時～後5時	20	受付5人は女子研究会参加は何名でも可
6	学習指導研究会前日準備	研究会場の準備を児童・教師と共に行う。（机・椅子等の運搬や駐車場、受付、授業会場・研究会場の作成及び清掃等）	1月16日（木）	20	
7	学習指導研究会当日	受付、案内、会場作成、駐車場案内誘導等を行うと共に、研究授業や研究会に参加して研究会の様子等を感じとる。	1月17日（金）前8時～後5時	20	受付5人は女子研究会参加は何名でも可
8	授業参観	教育実習中、実習生の授業を参観して、実習生や児童等の様子を観察し、教育実習への期待がもてるようになる。	8月20日～30ん（27日は除く）前8時30分～午前中	40	

③ 附属松本中学校の「参加」メニュー

★は、生徒とともに活動可能なもの

NO	活動名	内容	期日	参加人数	備考
1	［教科］国語 書籍の虫干し	○国語研究室等においてある書籍を虫干しし、かび虫などがつくことを防ぐ。書籍を広げること、片付けることで２日にわたって活動する。	夏休み中 ２日間　２h	3	夏休み期間は、7/30(火)～8/18(日)
2	社会 資料の整理	○社会科研究室及び資料室に保管してある資料の整理にあたる。内容は、教官の指示を受けて、資料の分類、棚への整理、廃棄処分等を行う。	夏休み中 ３h	4	
3	資料作成の補助	○授業で使用するＯＨＰや模造紙などの資料を作成する、その補助を行う。	夏休み中　２h	2	
4	数学 教材・教具作りの手伝い	○特に図形の学習における必要な教具（具体物）の作製を行う。	１～２日	2～3	
5	理科 教育実習の事後整理	○教育実習で使用した教材・教具、薬品の片付け整理補修、補充作業を行う。	夏休み中	4	
6	校地内樹林の名札つけ	○校地内にある樹木の樹木名を調べ、名札をつける作業を行う。	春～夏	4～6	
7	教育実習事前準備	○教育実習で使用する教材・教具、薬品の準備を行う。	６月上旬	4	
8	英語 教材作り	○題材に合わせた絵を書く。	通　年	2	
★9	Team teaching	○モデル対話の相手をする。学習が遅れがちな生徒への助言をする。	公開終了後４h	3	
10	技術・家庭 木工室の整理	○木工室の整理（材木の整理整頓、木工具の整理、刃物の研磨ｅｔｃ）	夏休み中	4・5	
11	包丁研ぎとまな板の補修	○包丁研ぎとまな板のカンナがけ	夏休み中	6	
12	ミシンの整備と説明書作り	○ミシン内の清掃と油さし、コード、コントローラー等の整備、各ミシンの取扱い説明カード作り。	夏休み中	男2、女5	
★13	草刈り	○生徒と共に校舎の周りの草刈りをする。	５・７・９月	２０	
★14	ペンキ塗り	○Ｘ階段・グリーンのペンキ塗りをする。	県中連前	１０	
★15	落ち葉の片付け	○一輪車やかごで落ち葉を集め、桜の木の下へ運ぶ。	家庭訪問中 11月後半	１０	
16	農園の囲いの補修	○農園のまわりにある青い柵の破損修理および新しい柵の設置。	公開前	１０	
★17	プール清掃・ペンキ塗り	○プールをデッキブラシで磨く。磨いたプールをかわかした後、ペンキ塗りをして壁面を保護する。	５月中旬	１０	
18	避難訓練の手伝い	○放水訓練の補助とホース干し。	春・秋　１h	4	
19	消火器・ホース点検	○消火器の有効期限、設置場所の点検、消火栓ホースのひび割れなどの点検。	４月　２h	4	
20	清掃用具の補修	○傷んだ清掃用具を清美委員会の生徒とともに、再び使用できるように修理する。	7・12・3月各下旬 1h	5	
★21	ワックスがけ作業	○各教室の汚れ落としとワックスがけを生徒とともに行う。委員会の生徒とともにポリシャーで床のワックス塗りの仕上げをする。	7月下旬 県中連・屠中祭前	１２～２４	
22	諸記録整理	○各行事の写真、テープ記録の整理の補助を行う。	学期末　2・3h	4～5	
23	蔵書整理	○図書館にある本の修理・整理等、蔵書整理の作業を図書委員の生徒とともに行う。	２月　1日0.5h	１０	
24	市中球技大会写真	○各会場で市中球技大会の選手や応援団のスナップ写真を撮る。	６月	６～１２	
★25	クラブ 演劇の大道具づくり	○附中祭の演劇クラブ発表で使用する舞台のバックにおく枠作りを加工する。	１０月上旬	4	

NO	活動名	内容	期日	参加人数	備考
★26	演劇指導	○演劇活動をしている大学生が、劇を演ずる中で、練習方法、実際の演技のアドバイスなどを行う。	夏休み中　3h	10～20	
★27	バスケクラブの指導援助	○顧問とともに活動の指導援助、模範実技の演示、生徒とともに練習	夏休みor土曜日　2h	3～5	
★28	バレーボールの指導援助	○クラブに参加し、顧問の指導の補助を行う。内容は球出し、練習相手になる等、生徒ともに活動する。	5月・10月　1h~2h	6	
★29	自主の時間の助言	○生徒の個人追究の助言者として、生徒とともに追究する。	9月上旬　2h	20	
	保健体育				
30	プール当番・監視補助	○父母・職員・体育委員に協力して、夏休み中のプール使用日に監視の補助をする。	夏休み中	2	
31	陸上クラスマッチ・バスケットクラスマッチの審判	○陸上クラスマッチの各係（決勝・計時・観察等）の活動 ○バスケットクラスマッチの審判		20	
32	放送関係の整理	○VTRの整理、ラベル貼りほか	夏休み中	2～3	
31	生徒下校時の交通整理	○生徒下校時に校門前、三沢パン屋、バス停留所などで安全指導の補助にあたる。	通年	4	
★32	松本城清掃 ★（女鳥羽川清掃）	○当日、分担区の落ち葉集めを生徒と共に行ったり、集めた枯れ葉を捨て場に運ぶなどの作業を行う。	11月中旬	10～15	
★33	リサイクル運動	○リサイクル物をトラックに積み込む補助を行う。	5・8・10月　1日1h	3	
34	校内の整備作業	○プールのペンキ塗り、落ち葉の移動などの校内整備作業を行う。	春	20	
★35	先輩の話	○進路指導として、中学校生活、高校受験、高校生活の話を一人15分程度する。学級・学年単位として行うことも考えている。	10月・11月 (2~3回)	6～8	
★36	登山付き添い	○下山者への対応に付き添う。	7月(1泊2日)	2	
37	駐車場の誘導	○校庭の駐車場に参会者の車を誘導する。	5/17 2h 県中連2h	10	
38	50周年記念式典の補助	○駐車場案内、会場案内 ○案内状・招待状の封筒入れ、名簿の確認		5 4	
39	菊用土づくり	○赤玉土、腐葉土などを混ぜる。	5月末	4	
	美術				
★40	写生会の事前指導および引率補助	○写生地までの引率補助（安全指導） ○絵画指導（良さを認め励ます） ○昼食時の生徒指導補助　他	9/8 9/14,15 9/27 写生会当日	30	
41	附中祭展示準備の補助	○展示用の壁面づくり、木枠組立て ○展示幕張、壁掛け、出品票貼りなどの指導	10月31日　午後	4～6	
★42	市球技大会の引率・応援指導補助	○各会場での生徒指導把握 ○委員の指導のもとに応援に参加 ○昼食時の生徒指導補助	6/18 大会当日	25～30	
★43	新聞委員会	○新聞編集の主な手順の解説と実践 特に割り付け、記事の構成、取材方法の実践など。 ○新聞の発行（新聞づくりポイントはここだ）など。	5月公開明け 1日2h	3～6	
44	進路指導	○高校調査に関係して ・体験学習の参加とそのまとめ ・卒業生の声をまとめ冊子をつくる ・特色ある場所や雰囲気などを取材してまとめる ○学校紹介のVTRづくり ○私が勧める学習方法 ○大学生活の情報（授業・経済面・生活面） ○センター入試のやり方	夏休み中	30	
★45	吹奏楽の指導補助	○コンクールに向けて楽器別の指導補助。	7/30～8/5	□	
46	発育測定	○身長測定および生徒指導	9月上旬・11月中旬	1	
47	公開準備	○接待全般の準備（接待道具を用意する。スリッパをきれいに拭いて揃える。	公開前日　5/17	2	
48	県中連準備	○接待全般の準備（接待道具を用意する。スリッパをきれいに拭いて揃える。	県中連前日	2	

④ 長野県松本盲学校の「参加」メニュー

NO.	対象・学年・部門・学校全	行事名等	月／日（曜）	時間帯	学生に希望する活動	人数及び回数	備考
1	小学部全	体育祭	6月7日（金）	8：30～15：00	運動会に参加し、競技参加の補助や児童と一緒に活動する。	2人（3回）	児童の実態等の説明会に参加した学生の中から参加
2	小学部体育	体育の授業（球技）	球技の単元期間	体育の時間	一緒に体育の授業を行う	2人（10回）	〃
3	小学部全	秋の遠足	9月	8：30～15：00	児童引率補助（児童と一緒に歩き目的地で遊ぶ）	2人（1回）	〃
4	小学部全	スケート教室	1月17日（金）	12：00～15：00	みすず湖のスケート場で児童とスケートをする。	2人（1回）	〃
5	中学部全	クラブ活動	10月以降毎週金曜日	13：25～14：15	生徒と共に活動へ参加	6人（20回）	毎回同じ学生が来校すること
6	中学部重複クラス	合同の活動	未定	2時間程度	生徒と活動（物作り、ゲーム等）	4人（10回）	活動の区切りまで同じ学生
7	中学部全	秋の遠足	9月頃	1日	遠足への参加	3人（1回）	打合わせに参加して欲しい
8	中・普合同	体育（ボールゲーム）	単元によって未定	1日に1時間	ゲームへの参加、	8人（10回）	同じ学生がくること
9	全校	部活動（野球）	5月～7月毎日	16：00～17：30	部活動の練習に参加	8人（20回）	ルールや生徒の実態の説明会に参加した学生の中から参加
10	〃	〃（バレー）	4月～6月毎日	〃	〃	5人（15回）	〃
11	普通科全	予備登山	6月21日	1日	普通科生と登山に参加 事前の説明会に参加し、本登山へも同じ学生が参加	2人（1回）	
12	普通科全	本登山（1泊2日）	7月23、24日	2日(1泊2日)	本登山への参加	上記の学生	
13	普通科	作業学習	通年	月、水、木、金の11:00～12:40まで	普通科の生徒の作業学習で一緒に作業をする。	2人20～30回	5～6回くらいは同じ学生で
14	全校	部活動（柔道）	10月中旬～11月中旬	16：00～17：30	部活動の練習の参加	2～3人（15回）	柔道経験者ならありがたい
15	普通科	スキー教室	1月24日	7：30～15：00	スキー教室へ参加し、生徒の補助をする。	2人（1回）	スキー経験者ならありがたい。

※大学への要望
- 児童生徒への理解が必要なので毎回学生が変わるようでは困る。ある期間同じ学生が来校できるように配慮してほしい。
- 参加回数は、およその回数です。
- 盲学校への理解をしてもらうためガイダンスを行うこと。
- 学生のけがや事故が起こる可能性があるのでその点をどうするのか。また、費用がかかる場合もあるがどうするのか。
- 参加する学生の態度等も問題になるので事前にきちんと指導していただきたい。
- 部活動など回数、参加人数が多いものは入れ替わりがあっても良いが、前回参加経験のある学生が新しく参加した学生に教えるというように学生の中でスムーズに活動が流れるように配慮していただきたい。

※担当職員－幼小部主任　丸山信夫　　長野県松本盲学校　〒390　松本市旭2-11-66　☎0263－32－1815

1．「参加」メニューの選択

専攻名		学籍番号	
氏　名			

第1希望	
第2希望	
第3希望	
第4希望	
第5希望	

2．「参観」かそれとも「触れ合い体験」か、どちらかを選択して○印を付けて下さい。

① 教育実習の「参観」
② ＹＯＵ遊サタデーの「触れ合い体験」

第1希望を優先する方法で実践センターにおいて割り振った。

（４）３年次生による教育実習の「参観」日程

１．附属幼稚園　８月23日（金）

○時程　登園　9:00
保育参観（教生実施）　9:00～ 9:50
学級の時間参観　9:50～10:05
集会参観　10:05～10:25
保育参観　10:25～11:05
副園長先生講話　11:10～11:50
修了（降園）　12:00

○持ち物　記録のできる用意　動きやすい服装　上履き

２．附属松本小学校　８月26日（月）、８月28日（水）

○時程　10時35分（授業開始20分前）正面玄関に集合
第３校時（10:55～11:40）の授業を１年から６年までの全クラスに分かれて参観する。

○持ち物　上履き　筆記用具　ノート　授業参観にふさわしい服装

○注意事項　授業会場への入室は２分前に完了する。授業会場での私語は厳禁。

３．附属松本中学校

教科名	月／日（曜）	参観校時	集合時間(場所)	備考
国語	８／２２（木）	第３校時	１０：２５(会議室)	集合時間は参観校時の２０分前です
社会	８／２６（月）	３	１０：２５　同上	
数学	８／２６（月）	２	９：２０　同上	
理科	８／２２（木）	４	１１：２５　同上	
音楽	８／２９（木）	４	１１：２５　同上	
美術	８／２１（水）	１	８：２０　同上	
技術	８／２９（木）	３	１０：２５　同上	
家庭	８／２２（木）	３	１０：２５　同上	
保健体育	８／２０（火） 8/22（木）	３ 2	１０：２５　同上 9：25　同上	
英語	８／３０（金）	３	１０：２５　同上	

○持ち物　上履き　筆記用具　授業参観にふさわしい服装・身だしなみ

（５）第10回信大ＹＯＵ遊サタデーの「ふれあい体験」講座

番号	講座名	キャプテン	使用教室	対象学年	募集人数	教材費・持ち物・服装など
1	楽しく作ろう藤（とう）かご作り	檜山いづみ（理科専攻４年）	屋外	小学校３年～	１５名	３００円　はさみ、メジャー、タオル、筆記用具、洗面器（あれば広めのものを）
2	プロへの一歩！？イラスト・漫画体験 ーパワーアップ・バージョンⅡー	山谷　早苗（幼児教育４年） 黒沢　祐子（幼児教育４年） 中島真由美（幼児教育４年）	５２番教室	年齢制限なし（ただし、小さいお子さんは保護者同伴で）	２０名	３００円　筆記用具、ポケットティッシュ、色えんぴつ・クレヨン・絵具など色を塗る道具、黒のサインペン（太・中・細の３本、0.1㎜～0.8㎜位の間）、描きたいキャラクターの絵があれば持ってきて下さい
3	サラサラ・ドロドロ・カッチカチ（小麦粉粘土）	坂本　真哉（大学院　１年） 小海　　到（医学部　６年）	５４番教室	園児～小学校２年（一人で参加できる子）	１２名	５００円（写真代等）　小麦粉 1kg、汚れてもいい服装で、できれば着替えも持って
4	でっかいでっかいしゃぼん玉をつくろう	宮本　　愛（音楽専攻３年）	屋外	園児～	１５名	汚れてもいい服装で
5	学校では教えてくれない㊙化学実験	長谷川直紀（理科専攻３年）	６４番教室	小学校４年～中学生	２０名	３００円　汚れてもいい服装で
6	君も紙づくり名人（牛乳パックからはがきを作ろう）	佐々木美恵（家庭専攻３年）	５１番教室	小学校１年～	１５名	４００円　新聞三日分、タオル
7	親子でサッカー	柳沢　勇志（数学専攻４年）	グラウンド（雨天時体育館）	小学生（親子でご参加ください）	３０名	運動のできる服装で（靴はスパイクでなくても可。雨天時は体育館でやるので、体育館シューズも）（あればサッカーボール）
8	とびだす紙しばい	桐山　　潤（国語専攻３年）	６３番教室	小学校１年～	１０名	はさみ、のり、色えんぴつ
9	ドラム・パーカッション入門	奥井　一良（理科専攻１年） 小林　理英（家庭専攻４年）	５５番教室	小学校４年～	５名	３００円　ぞうきん
10	宇宙生物スラスラスライム	田淵　久晃（理科専攻１年） 安喰　和之（理科専攻３年）	５６番教室	園児～	３０名	２００円　汚れてもよい服装で
11	ペーパーグライダーを飛ばそう	中村　典史（社会専攻３年）	５３番教室	小学校３年～	２０名	カッター、はさみ、セメダイン、色えんぴつ、新聞紙一日分
12	地図で旅行しよう ～松本駅からの旅立ち'96秋	登坂　武人（社会専攻２年） 小宮山　博（社会専攻２年）	７１番教室	小学生	１５名	地図帳、時刻表（全国版。古くても可）（これらは、ない場合はこちらで用意いたします）、計算機、筆記用具
13	おどってあそぼ！１（ワン）・２（ツー）・ダンス	中村　愛（障害児教育２年） 尾島久美（障害児教育２年）	体育館	園児～小学校４年	３０名	１００円　はさみ、体育館シューズ、動きやすい服装で
14	ペットボトルロケット	松下　貴晴（数学専攻１年） 今井　健文（理科専攻４年）	６４番教室	小学校４年～	１０名	カッター、はさみ、ホッチキス、炭酸飲料ペットボトル１本
15	続・教育学部ってどんなところ　Part Ⅲ	片桐　　宏（大学院　１年）	６１番教室	高校生～一般成人	３０名	希望学科、聞きたいことを記入して申し込んで下さい

◎教材費のほかに、参加費として別途１００円（傷害保険料込み）が必要になります。当日の受け付け時にお支払い願います。

１３：００集合　１３：３０～１５：３０　１６：００解散

《受講申し込み方法》

往復はがきの往信に、参加希望講座、参加者のお名前（ふりがな）、学校名、学年、住所、電話番号を明記し、返信の表に自分の住所とお名前を明記して、下記の宛先まで、**参加者お一人につき、一通**お送りください。なお、〆切は１０月５日（土）必着とさせていただきます。お申し込みが遅れますと、希望の講座に入れないことがありますので、お申し込みはお早めにお願いします。

宛先　〒３８０
長野市西長野６－ロ
信州大学教育学部附属教育実践センター
信大ＹＯＵ遊サタデー　係

《注意事項》

・**信大内の駐車場は使えませんので**、お車でお越しの際は北門周辺の有料駐車場などをお使い下さい。バスでお越しの際は、松本駅前ターミナル発「信大経由浅間温泉行き」乗車、「信大西門」下車正面です。
・当日は遅れないようにお越しください。
・雨天決行ですが、一部の講座で使用教室（場所）等が変更になります。

お問い合わせは実践センター、土井教官まで
TEL/FAX　０２６－２３７－６１２７
（電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、左記の要領でお申し込み下さい）

（6）多メニュー選択履修の「教育参加」を支える教務データベースの構築

東原義訓（附属教育実践研究指導センター）

1．はじめに

「教育参加」は、300名を越える学生が大学の教室から出て、それぞれの学生が異なる日時に、異なる場所で様々な活動を行う。学生が選択できる参加メニューは豊富であるが、定員には制限もある。各参加メニューの受入担当者には、その活動に参加する学生の名簿が必要である。副担任の教官には担当クラス単位の参加状況の一覧表が必要である。もちろん評価のための資料も作成し、判定結果を報告しなければならない。その報告書式は提出先によって異なる。また、初年度の試みであるので、各種統計情報も必要となる。

これらの処理をカードと手作業にたよっていたのでは、負担増になるばかりではなく、ミスが混入する危険度も上昇する。そこで、これらの処理をコンピュータ化することを試みた。

2．リレーショナル・データベースの採用

本教務処理ならびに必要となる統計処理を検討した結果、表計算ソフトや単なるカード型のデータベースではマクロ処理が必要になり、実際上構築は不可能であることが判明し、リレーショナル・データベースが最もこの処理に適していることから、Microsoft社のAccessを採用することとした。

メニュー：テーブル

ID	メニュー	メニュー	実施校
1	A01	春の遠足	幼稚園
2	A02	鯉のぼり運動会	幼稚園
3	A03	鯉のぼり運動会	幼稚園
4	A04	6月誕生会	幼稚園
5	A05	7月誕生会	幼稚園
6	A06	9月誕生会	幼稚園
7	A07	10月誕生会	幼稚園
8	A12	秋の運動会	幼稚園
9	A13	秋の運動会	幼稚園
10	A15	幼年研前日準備	幼稚園
11	A16	幼年教育研究会	幼稚園
12	A19	落ち葉掃き	幼稚園
13	B01	運動会前日準備	松本小学校
14	B02	運動会当日	松本小学校
15	B03	秋の遠足	松本小学校
16	B04	幼年研究会当日	松本小学校
17	B05	学指研当日	松本小学校
18	C02	社会資料の整理	松本中学校
19	C07	英語事前準備	松本中学校
20	C09	Team teaching	松本中学校
21	C10	木工室の整理	松本中学校
22	C14	ペン生涯し	松本中学校

図１　メニューテーブル

学生原本、メニュー、参加活動、参加先、専攻、評価の６つのテーブル（図１）から構成されるリレーショナル・データベースとして構築した（図２）。

3．学生マスターファイルの利用と参加活動のコード化

300名の学生に関するデータの入力作業を軽減するため、教務係の協力を得て学生マスターファイルから学籍番号、氏名等のデータをインポートした。また、学生の選択した第１～第５希望のメニューはコードで入力する方式をとった。

4．ニーズに応じた多様な出力

学生がどの活動に参加するかを示す表をとってみても、単位認定者が必要とする表は学籍番号順、受入担当者は活動別、協力校は学校別実施日時順などのリストが必要であった。本データベースにより、必要な項目のみについて、必要な順序に学生を並べた表を容易に作成できた。

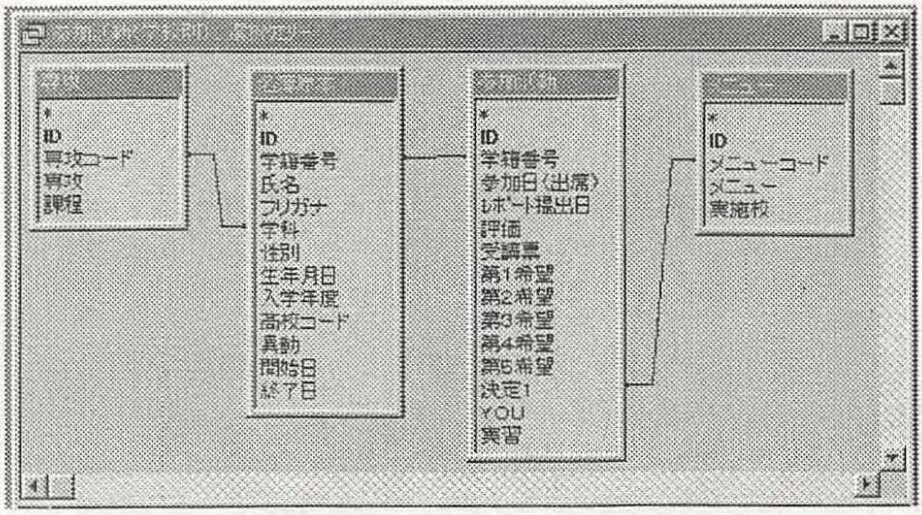

図２　「教育参加データベース」のリレーションの例

5．おわりに

学生の個々のニーズに可能な限り対応するためには、それを支援するデータベースが必要であり、それを活用できる素養が不可欠である。この能力も今後の教師の基本的力量であろう。

（７）「教育参加」に関する連絡先・方法

１．「参加」する学校が決まる前に連絡、相談がある場合
（先ず第一に）　実践センター　土井進、または東原義訓へ　下記の直通電話で（留守電あり、必ず用件を入れて下さい。）

信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

〒380　長野市西長野６－ロ
事務室電話：026-232-8106(内線481)
HomePage　http://cert.shinshu-u.ac.jp/
Phone/Fax　　E-Mail
教育実践研究室:026-237-6127 doisusum@gipnc.shinshu-u.sc.jp
教育工学研究室:026-237-9296 higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp

（次に）各専攻の副担任の教官を訪ねて下さい。
上條　厚（国語・障害児教育・幼児教育）
駒村　哲（社会・音楽・英語）
中村正人（数学・理科）
折口　築（美術・保体）
寺沢宏次（技術・家庭）
山崎達朗（心理臨床）
徳井厚子（国際理解）
吉澤文雄（教育実践科学・生涯スポーツ）

２．「参加」する学校が決まってから連絡・相談したい場合
（先ず第一に）各学校の教頭先生・副校長先生に電話してください。
附属幼稚園　　塚本節子（副園長）
〒３９０　松本市桐1-3-1　0263-35-4600　内線(2506)
附属松本小学校　　相場武彦（教頭）・小林賢一（副校長）
住所は同上　　0263-35-4600　内線(2511)　　内線(2510)
附属松本中学校　　中田宣彦（教頭）・堀内　泰（副校長）
住所は同上　　0263-35-4600　内線(2524)　　内線(2520)
長野県松本盲学校　　小湊　真（教頭）・宮島重光（校長）
〒３９０　松本市旭2-11-66　0263-32-1815

（次に）実践センターへ、そして、副担任へ

この連絡方法によって長野・松本間の相互連絡は、電話による連絡が約250回、E-Mailによる連絡が約10回、FAXによる連絡が約20回行われた。

2．各学校における実施内容・反省・課題

子ども達は、いないんですか？

塚本節子（附属幼稚園）

1、実施内容

(1) 春の遠足(14名)　・各学年にわかれて子どもの引率補助、子ども達とのあそび

(2) こいのぼり運動会(14名)

・用具搬出準備、競技中の出し入れ、PTA綱引き参加、園児のトイレや着替えの世話、後片付け

(3) 秋の運動会(10名)

・用具搬出準備、競技中の出し入れ、PTA大玉送り参加、園児のトイレや着替えの世話、後片付け、グランド作成

(4) 誕生会（6月、7月、8月、9月、10月）(計28名)

・誕生会の様子見学、一緒に歌を歌う

(5) 8月教育実習の参観(6名)　・実習生の保育を参観

(6) 幼年教育研究会前日準備(5名)

・子ども達のロッカー内の整頓、各保育会場の清掃、会場全体(附属小、附属幼稚園)の準備の様子を見学

(7) 幼年教育研究会(6名)　・幼年教育研究会参加（保育参観、研究会、講演会聴講など）

(8) 落葉掃き 2回　(計13名)　・園内外の落葉掃き

2、反省

・附属幼稚園としては、人手がたりないところですので大変助かりました。特に、手のかかる春の遠足や落葉が一斉に落ちる落葉掃きの時には、教育参加のみなさんがいたからこそ、計画通り行えたのではないかと感謝しています。

・落葉掃きに来た学生の声に「子ども達はいないんですか」という声がありました。子ども達の様子を見たり話したりする機会を期待していたようです。

・誕生会では、会場の後方で終始参観していただいたのですが、様子がわかり子ども達と母親と保育者が一体となって愛情に満ちた雰囲気がわかったと思います。

・どの学生も熱心に取り組んでくれました。幼稚園が、教育の原点であることを、子ども達の様子を通して肌で感じるよい機会だったと思います。

・秋の運動会は、前日の夜まで、大雨でできる状態ではなかったのですが、学生が真っ先に来て、グランドの水をとったり砂を入れたりしてくださったことで、わずかの遅れで実施できました。

3、課題

・子ども達との触合いを求めている学生もいるので、内容を考えたい。

・終日の人とわずかな時間の人と、内容や時間に差があること。

・感想を聞く機会を設けたときと、用紙にかいていただいた時とがあったが、学生の声を聞くことを大切にしたいこと。

・場にふさわしい服装、挨拶、マナー等について、きちんと連絡したい。(保護者の声)

・計画、連絡、実行、反省の手順を密にし、希望を語りつづける場として大切にしたい。

（２）幼稚園だよりに紹介された学生の活動の様子

信大附属幼稚園年中すみれ組学級通信

げんきいっぱい

No. 25　1996. 5.10（金）

ねえねえ　遠足に連れていってほしいと言ってきた人がいるんだけど？

昨日は、雨天のために楽しみにしていた遠足が延期となってしまいました。お空の神様が、「楽しみは後にとっておくがいい」と考えてのことだったのでしょうか。

さて、先に子どもたちには伝えたのですが、遠足に信大教育学部１年生の学生２名が子どもたちと一緒に行ってくれることになりました。新聞などにも掲載されましたが、将来先生になる学生の「教育参加」という授業の一つで、いろいろな子どもたちや学校園、教師の在り方を見たり感じたりすることが目的です。将来、先生になる希望がある学生さんなので、今のうちから子どもたちの様子を学ぶことは大切なことだと思います。

昨日、そのオリエンテーションがあり、すみれ組に来る２人のおねえさんに内容の説明をしました。２人は幼児教育を専攻され、幼稚園の先生になりたいという強い希望を持っていました。

そのことをさっそく、帰りの会のときに子どもたちにきいてみました。

先　　生：「お隣の大学から明日のみんなの遠足に連れていってほしいと頼まれた人がいるのだけれど・・・。」
クラス：「だれだれ」
先　　生：「お隣の大学１年生のお姉さん２人なんだけど・・・。みんなの遠足にぜひついていきたいんだって。どうする？」
クラス：「いいよ、いいよ。」
男の子：「先生、美人な人？」
先　　生：「美人だよー。」
男の子：「美人ならいい。じゃあいいよ。」

と、こんなことを言ってくる楽しい子もいましたが、先生の卵であるお姉さん二人を迎えて、より楽しい遠足になるように期待していたすみれ組の子どもたちでした。おうちに帰られたお子さんの土産話をきいてあげてくださいね。

予定

１３日（月）普通日課　お話の会

登園８：５０　降園２：００

連絡

◎蟯虫卵検査はおすみですか。通信だけでなく、担任がもっと目立つ張り紙をしておけば良かったですね。申し訳ありません。まだの方は月曜日にお願いします。

《学級通信》　信州大学教育学部附属幼稚園　うめ組

にこにこ

No.２６　平成８年５月１３日(月)

春の遠足

（教育参加の学生たちと一緒に）

城山公園まで遠足に行ってきました。暖かく絶好の遠足日和でした。年中の時のことを考えると、歩く距離はだいぶ長くなりましたが、その分子どもたちがしっかりとしており、歩く速さや心構えも去年よりもずっとよくなっていましたので、順調に行って来れました。

深志高校までちょうど３０分かかりました。休憩でトイレを済ませたり水を飲んだりしてから城山公園に向かいました。上り坂になってくると、「先生、まだ着かないの」と言う声も聞かれていました。着いて公園の芝生の上に座ったときには、みんなの顔は真っ赤でした。深志高校からは約４０分かかりました。公園では早速お弁当を食べ、その後、芝生で休んだり、滑り台やブランコなどの遊具であそんだりしました。帰り道も元気に歩いて帰って来れました。

◇

今年度から「教育参加」といって信州大学教育学部の１年生が幼稚園のいろいろな行事に参加や参観をすることになりました。今回の春の遠足も各クラスに２～３名ずつ学生が配属されました。うめ組には２名、中学校課程の堀内君と、小学校課程の高井さんでした。二人とも子どもたちとすぐに打ち解け、行き帰りの子どもたちの安全を見てくれたり、城山公園でたくさんあそんでくれたりしました。

◇

子どもたちの降園後、年長に配属された５名の教育参加の学生に感想を聞いてみました。

- 楽しかった。子どもたちのエネルギーはすごい。蹴られたりして少し頭に来た場面もあった。（頭に来てもにこにこしていてよかった。子どもの気を引きたいときの行動の一つか）
- 遠足に行く前に先生のお話を聞いている時の子ども、ある子は隣の友だちと話をしたりしていたが、ある時ふと集中し、みんなが同じ目になったのが印象的だった。
- 疲れた。私の言うことを聞いてくれない。（初めて出会った人だから仕方ないか）
- 疲れたが楽しかった。列が乱れて気になった。（子どもたちはまっすぐ隊形になって歩こうとしているわけではないから、また、その必要もないから問題ない）
- 子どもたちは自分中心だということを感じた。（自分の立場から世の中を見ている段階だからそれでいい）

教員志望で教育学部に入学した学生たちに、少しでも幼稚園の子どもたちの様子を分かってもらい、視野を広げていってほしいと思います。

というわけで、これからの行事（運動会など）にも学生が参観に来ますがよろしくお願いします。

お知らせ

◇クラス対抗親睦スポーツ大会お疲れさまでした。代表さんから賞状を預かりました。「３位　あと一歩だったで賞」とのこと。賞状は、保育室に掲示しておきます。お母さん方のおしとやかさが目に浮かびます？？？

◇「長野県PTA安全互助会ご案内」のパンフレットをまだお持ちでない方、お持ち下さい。

【５月１４日（火）の予定】
登園　８：４０　　降園　２：１５
◇PTA理事会があります。

【５月１５日（水）の予定】
登園　８：４０　　降園　１１：３５
◇土曜日課です。午後、会議のため。

信大附属幼稚園年少つくし組

つくしんぼ No.26　1996.5.13(月)

遠足　全員元気で無事楽しく行って参りました。途中、「かわいいわねえ、あなた達いい子だねえ」とゲートボールをしていた年輩の方から声をかけていただきました。（その後、団子状態になったりふらっと歩き出したりで、付き添いは皆汗びっしょでした）公園では、「これママにおみやげにするんだ」とタンポポを摘んでいる女の子や、「先生団子虫いた。ママに見せるんだ」とビニル袋に入れている男の子、学生のお兄さん先生からブランコを押してもらっている子、お姉さん先生から滑り台を滑るのを見てもらっている子など一人ひとりがゆっくりあそべました。

☆学生（幼児教育学科１年、男子２名女子２名）の感想：

・「大変だったけれど、おもしろかった。想像していたより大人だった」

・「反抗的だった子が、一緒にあそぶなかで次第によって来てくれるようになってよかった」

・「これ程すさまじいものとは思わなかった。いろいろ気をつかって大変でくたびれました」

・「毎日やっているんですか、とても毎日は耐えられない。でも、『先生見てて』と寄って来たときはうれしかった」

☆親睦スポーツ大会でのお母さん方のハッスルぶりを拝見できなかったのが残念です。隠れた一面が見れたかも。つくし組は、他のクラスを喜ばせるサービス精神が出た結果になったようですね。つくし組のお母さん方が、お互いに親睦を深められたことがなによりです。お疲れさまでした。

予定　１４日（火）登園８：５０　降園１１：２０　　PTA理事会

（３）「教育参加」報告

小林賢一（附属松本小学校）

本年度、開設された「教育参加」は、現場の立場からすると、大変、ありがたい授業科目といえる。本校の参加活動から学生の様子や感想(0) や教師の感想(●) と課題等を挙げてみる。（文中の番号は、①期日　②参加人数　③参加の様子・感想　④課題　とする）

１．運動会　前日準備／当日　①９月７日／８日　②２２名／２１名

③0 大変積極的に参加する／0 「子どもたちと触れ合えるのが楽しい」と、自分の分担日以外にも自ら参加する学生が多かった／0 当日の係の学生は、係の子どもの活動を優先し、気を配りながら活動をする等、子どもを全面に立て支援していた。

● 前日の椅子の運搬や用具、装飾等作業も子どもと共に働いてくれてとてもありがたかった／● 仕事は立候補制をとったが全員前向きに自分でやりたい仕事を責任をもってやり遂げて満足そうだった。

④・前日準備は、会場、万国旗張り、テント張り等人数がもう少し多いとありがたい。

・当日参加の学生には係活動だけでなく、競技にも入ってもらうことを考えたい。

・当日、係活動の学生の友だちが係席付近に来て節度のない言動が小数見られた。

２．秋の遠足　①１０月１４日　②３０名　※途中から雨天となり行動を早めた。

③・大学のお姉さんといっぱい遊べてうれしかった。（児童）

0 私の足でも大変なのに雨のなか子ども達はよくがんばった（パワーに圧倒された）

0 疲れたけど楽しかった。子どもは思ったより接しやすかったのでいっぱい触れ合えてよかった。（苦労はしたけどそれなりに勉強になりました）

0 雨になって残念だったけれど子ども達と一緒になって楽しめました。先生になる意欲がますますわいてきました／0 子ども達と思いっきり体を動かして楽しめました。大勢の子ども達を連れて行く大変さが身にしみてわかりました。とても疲れました。

● 特に低学年の先生方より参加してもらいありがたかった／● 児童の把握、交通安全遊びなど、学生に寄せる期待は大きい。

④・雨天延期になった場合の連絡について／・参加学生があと１０人は必要。

３．学習指導研究会　①１月１７日　②２２名(納、好11名、駐場、野11名)

③［受付］0 早朝より集合して、学習指導研究会参会者の受付処理を行った。

0 寒い中だったが、参会者への資料をわたしたり、挨拶をしたり、案内をしたりして能率的にできた。

［駐車場］0 前日の打合せの際には話をよく聞いてくれ、分からないことは質問する等、意欲的に参加していた／0 駐車場の案内の際、参会者に対する挨拶や言葉づかいにやや問題があった／0 寒い中２時間、よくやってくれた。

④・言葉づかい、授業参観時の服装／・人数が多すぎた。（受付は7~8名、駐場は5~6名位でよい）

４．今後の課題

・学校へは上履き（できれば運動ぐつ）持参でお願いしたい／・服装については、教育実習生に準ずるようにしたい／・参加学生の感想を見せていただきたい／・参加人数の調整を考えたい。

（4）展望の開けてきた教育参加

堀内　泰（附属松本中学校）

1　実施内容

（1）プール清掃ペンキ塗り	(5/21	6名)	（12）自主の時間	(9/18	3名)
（2）市体育大会〈写真撮影応援指導〉	(6/ 8	9名)	（13）陸上クラスマッチ補助	(9/19	8名)
（3）英語事前準備〈教材の絵かき〉	(6/12	1名)	（14）階段他ペンキ塗り	(9/21	4名)
（4）菊の用土づくり	(6/20	6名)	（15）写生会補助	(9/27	9名)
（5）燕登山付き添い	(7/24~25	1名)	（16）英語ＴＴ	(9/26・30	3名)
（6）木工室の整理	(8/ 1	2名)	（17）演劇大道具作り	(10/ 5	3名)
（7）バスケットボール指導	(8/ 1・7	4名)	（18）リサイクル運動	(10/ 3	3名)
（8）社会科資料の整理	(8/ 2~ 3	9名)	（19）ワックスがけ	(10/30	4名)
（9）吹奏楽の指導	(8/ 2~ 3	7名)	（20）先輩の話	(10/7~11/22	7名)
（10）実習生の実習の参観	(8/20~30	62名)	（21）松本城清掃	(11/ 9	5名)
（11）バレーボール指導	(9/ 5・6	8名)	※インターネット・蔵書整理（中止）		

2　反　　省

・生徒や学校教育全般についての理解を深め、３年次の教育実習への心構えを持つことにもつながり、たいへんに意義のある試みである。

・教育参加の体験後の感想等から、教育学部に学ぶ学生としての自覚の高まりが感じられる。

・服装や身なり等については、次第に場にふさわしいものになってきた。事前の連絡や指導が次第に生きてきている。

・自分から積極的に生徒の中に入っていける学生と、相手の出を待っていたり学生同士で固まったりしていて溶け込むのに時間のかかる学生がいる。何れにしても、生徒とのかかわりから自分を見つめ直すよい機会でもある。

・３年生の教育実習中の授業の参観は、先輩や生徒の姿から多くのことを学びとる良い機会であり、できるだけ奨励していきたい。参観のマナーについては概ねよかったが、記録をあまりとれない学生があり、学ぶものとしての基本的な姿勢づくりを一層進めていくことが望まれる。

3　課　　題

(1) 附属学校として考えたいこと

・教育参加の内容（メニュー）の適否を検討し、生徒とともに活動できる内容をできるだけ計画していきたい。

・各教科でＴＴを取り入れる等、授業に直接参加できることを検討し計画に取り入れていきたい。

(2) 学部にお願いしたいこと

・事前の連絡や指導については附属校でも行うが、訪問者としての基本的なマナー等については学部でも更なる指導をお願いしたい。

・学部での講座の時間と教育参加の時間との重なりの見極めは附属校ではできにくいので、 重ならないようにご工夫及びご指導いただけるとありがたい。

（５） 本校における教育参加
―― １年目にして大きな存在 ――

宮島重光（長野県松本盲学校）

大学から教育参加のお話をお聞きした時には「大学もずいぶん変わってきたものだな。」というのが私の最初の感想でした。特に「学生がでっちぼうこうのような気持ちで教育の現場から何かを学んでほしい。」という土井先生のお話はとても新鮮なものに感じられました。

でっちぼうこうなどは今の世の中ではほとんど存在しませんが、昔商家にでっちぼうこうして商いの仕方や人との接し方を汗を流して学び、立派な商人に育っていった事をおもいおこしてみると、前近代的なでっちぼうこうという人間関係の中に「現代でも通用する何かがある。」とその辺のところをお考えになってのことだったと思います。

さて、本校への教育参加の学生さんは行事やクラブ（部活動）を中心にして28人の方に来ていただきました。延人数でいいますと89人にのぼりました。同じメンバーで10回も継続してくださった方もおります。

本校で関係された先生方の教育参加に対する主な意見や感想は次のようなものでした。

(1)学生さんが目的をもって来校し、熱心に参加してくださり活動に活気がでてとてもよかった。

(2)学生さんが一緒に活動することによって、児・生間の人間関係が刺激になってよい影響を与えてくれた。

(3)生徒が校外に出た時に教育参加の学生さんに声をかけられ生徒がとても喜んでいた。

(4)１回だけでなく継続して５回、10回と来てくださったことは指導の見通しがもて大きな助けとなった。

以上のように教育参加は本校の教育にとって有意義なものであり、１年目にして大きな存在となりました。参加してくださった学生のみなさんに感謝申し上げたいと思います。特に継続して来てくださった学生さんは、大変有難い存在でした。同じ学生さんが何回か来ていただければお互いに親しみもわき、本校の生徒にとっては、はば広い人間関係を経験する機会となり教育的意味も大きいわけであります。また、学生さんにとっても盲学校の理解が一層深まるだろうと思います。今後、一人でも多く継続して来てくださることを期待しております。

それから、事前連絡会を設定しましたが、当日の参加をスムーズにすることができよかったと思います。課題としては、授業にかかわることで何か協力していただけることがないか、学生さんにとって費用のかかるものもあり、それに対する配慮。また、怪我・事故などへの対応など検討すべきこともあります。いずれにしましても、教育参加という機会をお互いに生かし合い一層よい方向に発展していくよう努力して参りたいと思います。この機会をきっかけにして学生さんが気軽に本校を訪れ、交流が深まっていけばとてもすばらしいことであります。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

3．313名による全体会の授業内容と学生の反応

（1）第1回全体会　4月19日（金）　16:20～17:50　共通教育センター　20番教室

【講義概要】

司会：東原義訓（実践センター）

(1)「教育参加」開設の趣旨

漆戸邦夫（実践センター長）

土井　進（実践センター）

(2)「参加」メニューと学校の紹介

手塚俊尚（附属松本小学校）

堀内　泰（附属松本中学校）

赤羽敏明（附属幼稚園）

丸山信夫（長野県松本盲学校）

(3)副担任からのあいさつ

吉澤文雄（教育実践科学・生涯スポーツ）

上條　厚（国語・障害児教育・幼児教育

駒村　哲（社会・音楽・英語）

中村正人（数学・理科）

折口　築（美術・保体）

寺沢宏次（技術・家庭）

山崎達朗（心理臨床）

徳井厚子（国際理解）

(4)　質疑・応答

(5)　書類への記入

「教育参加」開設の趣旨

土井　進

平成8年度にわが信州大学教育学部に入学された316名の皆さんに改めてお祝いを申し上げます。皆さんは縁あって、数ある大学の中で信州大学教育学部に入学されました。言うまでもなく、大学の主役は学生である皆さんです。皆さんが卒業されるのは、西暦2000年の3月です。皆さんの双肩に21世紀の日本の教育が懸かっていると言っても、決して過言ではないと私は思います。

今年度から教育学部のカリキュラムが大きく変わりました。その一つがこの「教育参加」であり、もう一つは同じく必修科目となった「コンピュータ利用教育」です。皆さんが新しい時代の要請に応えうる実践的な指導力をこれからの4年間で研鑽され、やがて学校教育現場をはじめとしてさまざまな分野でご活躍されることは大きな希望であります。皆さんは21世紀の大事な人材として、国民から首を長くして待たれている存在であると私は思います。

ここ信州という風土は、深い精神文化を育んできた土地柄であります。この地から全国屈指の教育者、学者、芸術家が育っていきました。農民詩人・小林一茶もその代表的人物の一人で、「やせ蛙　負けるな一茶　ここにあり」と詠んでいます。この負けじ魂で、これからの4年間、いかなる苦労も「艱難汝を玉にする」という気概で受け止め、「よく学び、よく遊んで」自己の人格を鍛えに鍛えていただきたいと思います。

皆さんは今、「生徒」から「学生」に社会的身分が変わりました。学生時代は、これまでに学んできた知識をさまざまな角度から多面的に、そして批判的に考察し、より高いもの、より深いものを求めて、自己形成を図る大事な時期であります。世の中に大きな足跡を残した人物は、例外なくその萌芽を学生時代、青年時代に育んでいます。

この「教育参加」という授業は、自由でしかも批判的精神に充ちた皆さんに、附属幼稚園、附属松本小学校、附属松本中学校、そして、長野県松本盲学校で実際に行われている教育活動の中に参加していただき、単なる見学者としてではなく、共にこれからの日本の

教育の在り方を探究する学生として、子どもたちと共に、先生方と共に、額に汗することを通して、人間はそれによってのみ人間となることができる、といわれる「教育」の営みについて、深く深く思いを致していただき将来への脚根を定めていただきたいと思います。

皆さんが附属幼・小・中学校、そして長野県松本盲学校に行かれることが、それぞれの学校の子どもたち、先生方にとってもすばらしい刺激となり、「また来てもらいたい」「大変な仕事を手伝ってもらって非常に助かった」と言われるような、さわやかな学生としての振る舞いであっていただきたいと思います。3年次に行う「教育実習」は、皆さんは「先生」として子どもの前に立ちます。しかし、この「教育参加」は「学生」としての真摯な眼で学校教育現場のありのままの姿に触れていただくものです。これらの教育機関が、皆さんを日常の教育活動の中に受け入れて下さいます。このような温かいご理解とご英断によって、「教育参加」は大学の授業科目として出発することができました。

教育実践のただ中に自ら踏み込み、子どもたち・先生方とふれ合う体験の中で、21世紀の日本の教育の在り方をじっくりと考えていただきたい、というのがこの授業の心なのです。頑張って下さい。

【学生の反応、出席カードより】

○子どものことがよくわかりそうな実践的な授業で、楽しそう、かつ勉強になりそう。
○実際に子どもと一緒に活動できるものに参加したい。自分が教師に向きか不向きかが分かっていいと思った。
○子どもたちに直接ふれ合う機会が1年生のうちからあるのは、とても役に立つことだと思う。
○数多くの参加メニューがあり、どれもやってみたくて参加するのが楽しみになりました。
○不安はあるけれど楽しそうだなと思った。子どもとより多くふれ合いたい。経験豊富な教師になりたいのでがんばりたい。
○とても興味がわいてきて、早く教育参加がしたいと思いました。信大教育学部で良かったと思いました。
○自分が教育学部に入り、教師をめざしているということが、1年という早い時期から自覚できるからとても良いと思う。たくさん子どもとふれあってみたい。
○内容を聞いてとてもすばらしい授業だと思う。まだ教育についての知識はほとんどないため、さらにこのような場を増やして欲しいと思う。
○遠足に参加したくても、月曜日は講義があるので希望が出せないのが残念です。夏休み中などの参加は、地元に帰っているために大変です。子どものいない参加はただの雑用なのですか？
○取りたい「参加」メニューがあっても、大学の授業と重なってしまっていて残念です。
○「参加」メニューが平日に多いのが少し残念です。
○自分がどの程度子どもとうまく接することができるのか、知りたい。
○静岡新聞にこのことが載っていてかなり興味を持っていた。とにかく子どもと遊びたい。
○大学の休日を活用し、土曜日など、活動できる場を広げて下さい。
○今はまだ自分が本当に教員としてやっていけるのか全く自信がないけれど、この授業に参加することで、自信がつくといいなあと思う。

（２）第２回全体会　５月２４日（金）　16:20～17:50　　共通教育センター　20番教室

【講義概要】

１．「参加」した学生による体験報告会

２．「参加」、「参観」、「触れ合い体験」レポートの提出方法

(1)レポートの形式

・Ａ４版の用紙を用い、字数は、1000～2000字とする。

・写真やパンフレットなどの資料を添付してもよい。

・学籍番号、記名を忘れず、ホッチキス等できちんととめること。

・提出先の副担任教官名を明記して提出する。

(2)レポートの内容

・原則として次の項目が含まれるようにすること。

・参加した「行事・活動」名

・参加した日時、会場名

・参加した「行事・活動」を選んだ理由

・子どもの様子

・教師の様子

・学校の様子

・参加して得たことを、今後の自分の研究課題にどう結びつけるか。

・感想など

(3)レポートの提出方法

・終了後２週間以内に副担任教官宛に提出する。

・提出場所は３階の南支援室で、そこに置いてある段ボール箱に入れる。

（8:30～17:00）

(4)レポートの評価

レポートは、次の４段階で評価する。

Ａ：形式が整い、内容も充実している。

Ｂ：形式や内容面にやや不十分な点が見られる。

Ｃ：形式や内容面に手抜きがり、今一歩の努力が望まれる。

Ｄ：未提出

３．「参加」メニューの事前打ち合わせ会についての連絡

４．「いじめフォーラム’96」（５月25日）のお知らせ

【学生の反応、出席カードより】

○だんだん大学生活にも慣れ、少したるんできたので、今日教育参加に出て私が教育学部に入った本来の目的を思い出し、ハッとしました。遠足に行った人たちの話を聞いて、大変だけど楽しそうだと思い、私も近いうちに子どもたちと関わりたいなあと思いました。２日間しか機会がないけど、今後に生きるよう一生懸命取り組みたいです。

○１年次は教養授業ばかりで、自分が教育学部だという気がしないんだけど、この授業に

出ているときは教育学部なんだという気がして、なんとなくうれしいし、参加する行事が楽しみです。

○もう既に「参加」された人のお話を聞いて自分もやる気が出てきた。自分も夏休み中にあると思われる「木工室の整理」に向けて気持ちを高めていきたい。少しでも教員になるという気持ちをもって生徒たちとのふれ合いを大切にしたい。

○私の地元の友だちには教師志望の人が多く、何人も教育学部に入ったが、信大の「教育参加」のようなものがある大学はないようだ。信大に入って良かったと思う。このような経験はなかなかできないので、うれしい。

○私の家の近所には、小学生や中学生が少なく、私は近所の中でも一番年齢が低かったので、この「教育参加」はとても楽しみにしている。私たちはふだん「頭を使う勉強」ばかりしていたから、子どもとふれあうことに多少のとまどいはあるだろうが、がんばって行こうと思う。このような計画をして下さってありがとうございます。

○私はとても教育参加を楽しみにしています。実は教育学部に入る前、教育実習だけで本当に子どもたちの事を理解できるようになるか不安でした。でも、こうして教育参加というものが行われると知って、とても喜んでいます。これからもこのような事を多く取り入れて欲しいと思います。

○「教育参加」は今年から行われているものだということですが、大変私は嬉しく思います。教育学部とはいえども、1年生の内は総合分野を勉強しているし、教育実習は3年生からということもあって、1年生の内に生徒とのふれ合いの場を設けて下さったことに感謝しています。生徒との交流に対しては興味深いものもあるし楽しみですが、その分不安もあります。けれども今日の体験報告を聞いて、大丈夫だろうなと少しほっとしました。この授業もいいものです。

○教育参加に魅力を感じてこの大学を選んだようなものなので、とても楽しみですが、他の授業とのかね合いが難しいと感じます。

○今年から始まった授業であり、自分たちが自分たちの力で学ぶ本当に良い機会であると思う。自分の参加はまだまだ先だが、今から準備をしたい。

○この教育参加はすばらしいと思う。めったにできない“信大”でしかできない事なので、これからもずっと続けていってもらいたいと思います。

○中学生の子としゃべって交流を深めようとがんばった。たくさんしゃべることができとても楽しかった。もっと長くペンキ塗りをしたかった。

○遠足に行った人々の話を聞いて、自分も早く活動に参加したいと思った。大学に入ってそろそろ2ヶ月だが、生涯スポーツにいるけど、学校の先生にもなりたいと思うようになった。

○教育参加した人は、皆いきいきしている。苦労もあろうが楽しそうだ。

○中学生とのコミュニケーションが大変そうだった。自分の方から生徒と仲良くし、話ができるようにしなければいけないと思った。

○それぞれが何かを学んで帰ってきたみたいで、自分もあのようになれるか心配だけど、自分なりにがんばってきたいと思う。

○中学校へ行くことになった。すでに参加した人の話によると、中学生はなかなか心を開いてくれそうにないので、自分から積極的に話しかけようと思う。

（３）第３回全体会　６月２１日（金）　16:20～17:50　　共通教育センター　20番教室

【講義概要】

１．「参加」した学生による体験報告会（土井） ２．講師紹介（漆戸） ３．附属幼稚園における「教育参加」と教育実習について　　塚本節子（副園長） ４．「信大ＹＯＵ遊サタデー」の紹介　　司会：野本聡（理科専攻４年） 　ＹＯＵサタの目的と意義　丸山和利（理科専攻４年） 　私のＹＯＵサタ体験　今井健文（理科専攻４年） 　六角がえし、けん玉の実演　竹下雅道（数学専攻３年） ５．教育学部同窓会報の配布と説明（漆戸） ６．「参加」メニューの変更調査（土井）

【学生の反応、出席カードより】

○今年からの新しい試みの“教育参加”は、予想よりはるかに楽しいです。とてもいい授業だと思います。もっとたくさん子どもたちとふれ合って、子どもたちの純粋な心を分けてもらいたいと思っています。本当に子どもたちはかわいいです！

○今回も前回に引き続き教育参加へ行った皆さんの感想を聞くことができ、貴重な情報だと感じた。私は中学生の塾の講師をしているが、やはり勉強以外のことで子どもとふれ合うことは難しいのだなあ、と自分と重ね合わせてみた。

○参加活動を終えた30人の人たちの感想を聞いてみると、たったの１日だけの活動の中でも、子どもたちから学ぶことがたくさんあるんだなあと感じました。そういった“子どもたちから何かを学ぶ”ということはとても新鮮なことで、いい経験だと思います。私もはやく活動に参加して、いろいろと感じ取ってきたいと思います。

○教育実習や教育参加というものを、今まで何らかのイベントのように捉えていたけれど、今日の授業の内容を聞いて非常に反省させられることが多いお話でした。私たちの細かい一つ一つの動きが、子どもたちに与える影響を考えると恐ろしくなった。だから、もっと真剣な神聖なものとしてとらえるべきだと考えさせられた。本当に今日は気持ちが重くなるほど考えさせられた授業だった。

○「参加」ということなので、突っ立ているだけでなく、自分から積極的に話しかけたり、作業に加わりたいです。私は「運動会準備」に参加予定なのですが、小学校時代にもどった気分で参加したいです。あと、「裏での努力」という言葉はいいと思います。私も見えないところでこそ努力したいし、そういう人をたくさん見つけられたらいいと思います。

○塚本先生の話はとても身にしみて感じました。今日、私は４時20分ぎりぎりに来てしまったので、もう少し早く来ようと思った。それから黒板にきれいに早く書くということや話し方にもこれから気をつけようと思いました。

○“教育の場に足を踏み込む”ということは容易なことではないのだと実感しました。自分がいざその場に踏み込んだとき、適応できるかどうか不安です。でも、信大ならではの行事に積極的に参加し、実践力のある教師になれたらいいなあと思いました。

○前回よりも皆の意見がしっかりとしていたので自分も頑張ろうと思った。子どもたちに慕われるように気合いを入れて臨みたいです。
○今日の授業で大きなショックを受けた。自分が目指している道は大変なものだと思った。
○教育参加してきた人の顔がとってもいいと思いました。それと教育というものがきびしく大変であるということを改めて実感しました。自分の考えの甘さにただただ反省するのみです。もっと真剣に取り組まないといけないと思いました。
○今日前で話をしてくれた人たちを見て、「教育学部だなあ」と改めて感じました。皆、自分の考えをはっきりと言葉にできて、素敵でした。“子どもたちの方が私たちにおしえてくれる事がたくさんある”ということを、身をもって知れて、なかなか教育参加はやるものだと思いました。
○教育参加のことを報告したとき緊張しましたが、将来教師になったときに大人数の前で発言することが多々あると思うので、今日のこともいい経験になったと思います。
○現在の若者（もちろん自分も含む）は、常識的な礼儀が少しかけていると思う。人との応対（特に目上の人との会話）や自分の意志表示などは、僕に今一番欠けているもので、是非将来のためにも無理なくできるようにして、相手も自分に好感を持ってもらえるようにしたい。
○全員の前で発表したが、緊張して何を言っているのかわからなかた。将来教師になりたいので良い経験になった。
○副園長さんのお話は、からい、きついお話でしたが、まさにたるんだ私の生活をひきしめ、当たり前のことを当たり前にできるべきたということを教えていただいたと思います。礼儀を当たり前にできるような、素直に反省できる人がすばらしいと思いました。
○私は「鯉のぼり運動会」に参加してきたので、前に出て報告しました。他の人に発表も、うんうんとうなずけるものが多かったです。本当に楽しかったし、子どもたちにも「またきてね」と言われたので、遊びに行きたいなと思います。でも、１日やるのと毎日やるのとは全然違うと思います。この１日だけの参加は、ただやるだけでは「単におもしろかった。楽しかった。」で終わってしまうと思うので、この経験を通して自分で考えることをしなければいけないと思います。
○土井先生もおっしゃっていましたが、「参加した人、前に出て下さい」と言われたときに、なかなか出なかったこと、ざわついていたこと、これが大学生なのか？と思った。怒られないとできないのかと思うと少し情けない感じがした。それじゃお前はちゃんとできるのかと言われると、たぶんできなかっただろうと思う、が、今回のことがいい戒めになった。
○附幼の副園長先生の話はとても身にしみた。大学生になって今までと段違いに自由になったことに慣れてしまい、当たり前のことができなくなっている自分に気が付かされた話だった。ひじをついて人の話を聞くことがどんなに失礼にあたるか、もう一度自分自身で良く考えてみたい。大変そうだけど、がぜんやる気が出てきた。
○私たち学生の授業態度がとても悪かったと思います。私も含めて毎日の生活の中で将来の夢を忘れ自覚していないからだと思います。とても恥ずかしいことだと反省しました。
○今日の授業はうるさくて、土井先生が叱ったのも無理ないと思います。私もうるさかった一人です。教員を目指す人たちがこれではやはりいけません。深く反省します。

（4）第4回全体会　7月12日（金）　16:20～17:50　　共通教育センター　20番教室

【講義概要】

1．レポートの提出方法について（上條） 2．ビデオによる「信大ＹＯＵ遊サタデー」の紹介 3．学生生活最初の夏休み、君はどう過ごすか（土井） 4．「参加」メニューの変更調査（土井）

【学生の反応、出席カードより】

○ビデオの感想。信大生がとても熱心で真剣に取り組んでいることが印象的でした。私も高年次になったらＹＯＵ遊サタデーに参加したいです。

○ビデオを見て、子どもたちも楽しそうだったけど、それ以上に学生がとても楽しそうで、生き生きとしていたことが印象に残った。

○ビデオを見ていてイイナと思ったことは、教える側の大学生が“教えている”という態度ではなくて、“一緒に教え合っている”という印象を受けたことです。

○子どもたちを楽しませ、また自らも楽しんでやるＹＯＵ遊サタデーは、とてもよいものだと思った。陰では色々な苦労があったのだとは思うけれど、終えた後にそれ以上のものを得ているのかなと思った。

○おから一つを取り上げても、これは大豆が原料だとか、いろいろと一つの話題から様々な分野へ話題を深めていることが良いと思った。子どもたちと遊びながら様々な話ができるように、今からいろいろなことに関心をもって、知識を高めていきたい。

○夏休みの抱負。教育関係に限らず、時間のある１年の夏に、人間の幅を広げたい。今、興味のある本も読みたいし、旅行等にも出かけ、視野を広げたいと思う。「人間くささ」をテーマに、しょうもないことから、学問的なことまで、前進をアンテナにして、より多くのものを感じ取っていきたい。

○部活の大会や合宿で忙しいけど、何事に対しても一所懸命に取り組みたい。

○夏休み中は、集中講義で山に登るので、信州の自然を思いっきり味わってきたい。

○教育学部では１年次の夏休みが一番ゆっくりとしていると伺い、この夏休みに外国語の勉強を兼ねて海外に出ようか・・・と思ったり、今年１年しか親しく付き合えない他学部の人たちとの交流を深めるために何にかを企画しようかと考えたり・・・。やはり前期でこなしきれなかった勉強を最優先に片づけるべきか・・・。と考えているうちに夏休みが終わらないようにしなくてと思いつつ、初めての試験を目の前にして、慌てふためいている毎日です。

○夏休みは新入生ゼミや新入生ゼミ合宿で大学に来ることが多く、まとまった休みがとれず、短期留学をするつもりだったのに行けなくなってしまい、とても残念に思っています。夏休みみたいに長期の休みが取れるのは、大学生の時だけなのだからカリキュラムをもう少し考えて決めて欲しかったと思う。

○まだ大学に入学したばかりだと思っていたのに、早くも夏休みになってしまった。この３ヶ月、私は自分の本当にやりたいこと、夢中になれるものがまだ見つけられない。夏休み中に参観する教育実習を通して、自分自身勉強不足な部分を少しでも補いたい。

（５）第５回全体会　10月２日（水）　16:30～17:30　共通教育センター　20番教室
【講義概要】

(1)　７月～９月の教育活動に「参加」した学生による体験報告会
　配布資料「学校の教育活動に参加しましたか？」
(2)　８月に教育実習を「参観」した学生による報告会
　配布資料「教育実習を参観した１年生の名簿」
(3)「参加」メニューの変更調査
(4)　第10回信大ＹＯＵ遊サタデー参加者の打ち合わせ会
　配布資料「ＹＯＵ遊サタデーに参加する１年生の名簿」
　配布資料「第10回信大ＹＯＵ遊サタデー講座一覧表」
　（連絡）10月11日（金）16:20からＹＯＵ遊サタデーの会場づくりを４年生と一緒に行うので、生協前広場に集合して下さい。

【学生の反応、出席カードより】
夏休み中の収穫
○趣味で続けている「なぎなた」の練習に励みました。夏休み中に行われた松本市での大会では好成績を収めることができました。
○サークル（吹奏楽）の合宿で先輩方と仲良くなれたこと。楽器に対する考えが前向きになって、以前より練習に励めるようになった。
○実家を出て１人で暮らしていく中で、いろいろと家事をするクセがついていたことが、家に帰ってみて分かった。ご飯を作ってくれる人のありがたさを実感。母よありがとう。
○部活があったので毎日５時30分に起きて学校に通いました。電車の中で本を３冊読み切りました。時間を有効に利用することができたし、早起きが習慣となり良かったです。
○運転免許を取得できてとても嬉しい。『教員になる人のための本』というのを読んだが、教員の辛いところばかりが目立って、私の希望がくだけそうになったので少しでやめました。
○教育実習の参観によって子供たちも自分自身で考え、しっかりとした意見をもっていることを知り、子ども達をみる目が変わったような気がしました。
○お店でアルバイトをした。私は買った商品を袋に入れるだけだったのですが、お客さんの子どもがすごくかわいかったです。レジの前でお母さんに「おかし、立って食べちゃだめ！」と怒られた子どもがその場にストンとすわって食べていた姿には、とてもわらえました。
○学校関係とは別の小学生の合宿に参加する機会がありました。その中で親の教育に対する話が聞け、私の中で教育観がかなり変わったように思います。弟の友だち（小５）の登校拒否の子の過程教師を始めました。
○「社会資料の整理」に飛び入り参加したが、普段の社会の授業の裏には、大変な努力の積み重ねがあると思った。

○夏休み中はほとんど毎日アルバイトをしていました。ギフト売場なので、のし紙のこととか常識的なことを覚えることができました。年輩の方がいっぱいで、いろいろなお話をお聞きして為になったこともありました。
○スキューバダイビングのライセンスを取りました。海中は地上ととても違い、様々な海中動物が見れ、珍しい経験でした。
○相談員として子どもとキャンプに行きました。子どもと接するのがとても久しぶりで、新鮮で、今の子どもの状態を子どもと直に接して感じ取ることができました。
○塾講師を始めましたが、こんなにも人に教えるのは大変なことなんだという事を実感しました。でも、いい勉強になるのでこれからも頑張ります。、また、志賀合宿では自然の厳しさに接し、忍耐力が少しついたと思います。
○電話工事のバイトをやったのですが、配線などがなかなか覚えられず大変でした。また、外での工事もあったので、雨に降られて大変でした。
○小学校１年生の時の担任の先生に十数年ぶりに再会しました。そして、新任時代の辛い経験や教師の影響力を聞きました。
○野生のイルカと泳いできた。そのとき、三宅島だったのだけど、海の雄大さを実感した。「地球を感じた」という感じでした。
○理科教育ゼミナールで志賀高原に行き、目の前の自然を相手に学べたことがよかったです。クラスの団結も深まりました。
○スーパーでアルバイトして、いろいろな人たちとふれ合うことができ、自分にプラスになることばかりでした。
○バイトで営業をやったが、毎日のように12時間ぐらい働いた。社会の厳しさがよくわかった。
○休み前からやっていた喫茶店で休み中もアルバイトをしました。夏休みということでとても混みました。８月からはオーダーされたものを作る仕事も教えてもらってやりました。毎日、失敗したら怒られ覚えていくという感じでした。やっったことのない事ばかりで、良い経験になりました。
○忙しくアッという間の８月と、のんびりと過ごした９月。終わってみると長いようで短かった。アルバイトをいろいろした。そば屋、スーパーのお総菜売り、宴会場、結婚式の巫女、フルートの演奏会。社会の仕組みとか今まで見られなかった裏側がチラッと見えた気がする。わずかな収入、お金をかせぐ大切さも。人がそれぞれの役割を果たしている上に、また人が存在するのだと思った。働く人たちに感謝します。
○自動車学校に通った。本当は休み中に免許を取る予定だったのに間に合わなかった。今までしたことのない事をして、車の運転というのがいかに難しく、疲れることかを知った。そして、すべてのドライバーを尊敬した。
○夏休み中は、サークルの合宿、教育参加、教育実習の参観、新入生ゼミの志賀合宿などがあり、大学に来て知りあった人々とさらに親しくなれ、小・中学生の実態というのもわかり、有意義な夏休みだったと思います。特にサークルの合宿では、音楽的に成長できたように思い、これからの自分の専門科目に活かしていきたいです。また、アルバイトもして、人間関係がうまくいくように毎日気を使いながら生活したことも、私にとってプラスになったと思います。

（６）１年生の教職に関する意識調査結果

土井進（附属教育実践研究指導センター）

１年生を対象とする「教育参加」の授業を改善していくための資料とするために、次の３種類の意識調査を実施した。調査日は第１回目の全体会が行われた平成８年４月19日（金）である。回答数は312名であった。

１．１年生の教職志望度

あなたの、今の教職志望の強さはどれですか。当てはまるものを１つ選んで番号に○印をつけて下さい。

①「教職にしか就職は考えていない。」	132名	(42.7%)
②「主として教職志望だが、条件がよければ会社などでもよい。」	75	(24.1)
③「教職でも会社・官庁などでも、どちらでもよい。」	29	(9.3)
④「主として会社・官庁志望で、それらが駄目の場合は教職でもよい。」	21	(6.7)
⑤「会社・官庁などにしか就職は考えていない。」	4	(1.2)
⑥「大学院、自営業などのつもり。」	14	(4.5)
⑦　未回答	35	(11.5)

２．教員適性判断（自己評価で重視するもの）

あなたは、自分が教師に向いているかどうかの判断をするとき、次の12項目において、それぞれどの程度重視しますか。次の５段階尺度で、○をつけて下さい。

（例）

5	4	3	2	1
非常に重視する	かなり重視する	どちらともいえない	ほとんど重視しない	まったく重視しない

	5	4	3	2	1	５と４を合計した割合
①自分の個性や性格	83	162	57	7	2	78.7%
②こどもに対する好き嫌い	109	126	46	23	7	75.5
③教職への使命感や熱意	111	135	52	11	3	78.8
④専門的な知識や技能	54	122	102	29	4	56.5
⑤創造性や独創性	79	130	84	16	1	67.4
⑥話し方のうまさ	85	134	74	17	2	70.1
⑦人間関係の円滑さ	98	148	50	10	2	79.8
⑧常識の豊かさ	104	131	62	9	4	75.8
⑨体力や健康	113	119	62	16	2	74.3
⑩社会的な視野の広さ	111	143	52	5	0	81.6
⑪教師の社会的地位	5	29	116	94	68	10.8
⑫経済的な安定	9	45	128	88	42	17.3

3．遊びリーダーの自信度

「あなたは、ボランティアとして子どもたちの遊びのリーダーをする自信がありますか？」

5　4　3　2　1

大変自信がある　└──┴──┴──┴──┘　全く自信がない

	5	4	3	2	1	
1年生（312名）	10.2	36.8	30.4	16.9	5.4	（%）
2年生（293名）	11.9	31.0	34.4	17.0	5.4	
3年生（330名）	8.1	26.3	29.3	24.2	11.8	

（1年生は4月19日、2年生は4月4日、3年生は4月　10日に調査した。）

なお、この遊びリーダーの自信度の調査は、次の4問のアンケート調査の中の第4番目のものとして実施された。今後毎年この調査を続けることによって、「教育参加」による子どもとのふれあい体験が、遊びリーダーの自信度にどのような影響をもたらすか、注目していきたいと思う。

アンケート　　附属教育実践研究指導センター

例にならってあてはまるところに○をつけてください。

例　あなたは、大学生として自信がありますか？　　大変自信がある　└─┴─○─┴─┘　全く自信がない

1．あなたは、ワープロを使うことに自信がありますか？　　大変自信がある　└─┴─┴─┴─┘　全く自信がない

2．あなたは、小・中学生がコンピュータを使う意義について説明できますか？　　大変自信がある　└─┴─┴─┴─┘　全く自信がない

3．あなたは、3年次に「教育実習」をすることについて、今の気持ちはどうですか？

大変不安である　└─┴─┴─┴─┘　全く不安はない

大変期待している　└─┴─┴─┴─┘　全く期待していない

4．あなたは、ボランティアとして子どもたちの遊びのリーダーをする自信がありますか？　　大変自信がある　└─┴─┴─┴─┘　全く自信がない

４．「教育参加」を履修した学生の活動事例

（１）各学校の教育活動に「参加」した１年生の反応

①【附属幼稚園の「落ち葉はき」に参加した学生】

１１月１４日木曜日、私は附属幼稚園の落ち葉はきに参加した。久しぶりに落ち葉はきをした。小・中・高校とよくこの季節になると、落ち葉はきをして、その後たき火をしたのを思い出した。大学に入ってからはそういった機会もなかったので、秋恒例と言えるこの活動に参加できたことはとてもうれしかった。附属幼稚園には予想以上の枯れ葉が落ちていた。１４日に落ち葉はきに参加したのは、たったの５名だったので、私にはとりとめもない作業に思われた。初め、私は園児たちと一緒に落ち葉はきをすると思っていたのだが、幼稚園に行くと驚いてしまった。子どもたちは帰り始めているのだった。せっかく元気な子どもたちと直接接する機会が得られたと思っていたのに、非常に残念である。

さて、私が附属幼稚園に常に抱いていたイメージは自由であった。附属幼稚園は私の通学途中にあり、毎日様子がうかがえる。私が前を通るときはいつでも、子どもたちは外で遊んでいる。私の幼稚園時代を思い出すとかなりの差が浮かんできた。私は書道・英語（簡単な単語であったが）漢字・歌・楽器etc…、様々なことを先生から教えられていたと思う。私には附属幼稚園に通っていた従兄弟がいるので、幼稚園の様子をよく聞いてみたことがある。先生の方から「あれしましょう。これしましょう。」と言うことはなく、全て子どもたちの自主性にまかせているのだそうだ。子どもの方から頼って来たときに初めて手を貸すといったことを聞いた。外で遊んでいる子どもたちは、言われてみれば皆やっていることが違うのだった。グループが子どもたちの間で出来ている感じだった。このような遊びによって、小さい時から社会性が身に付くのではないだろうかと思った。自由である反面、ある意味厳しい場所でもあるのではないだろうか。しかし、実際の子どもたちの生き生きとしたパワーのようなものをもらった気がして、子どもの不思議な純な気持ちを強く感じた。そういったイメージを持っていたので、14日の子どもたちが帰ったあとの作業はものすごく静かだった。

子どもたちとの交流は持てなかったけれど、先生方との交流が持てたので良かったと思う。幼稚園に行くと、とても優しそうな先生が私たちを待っていてくれた。ここでほとんどが保父さんであることに驚いた。私が通った幼稚園では全てが保母さんであったからだ。しかし、男であること、女であることは関係ないとすぐにわかった。ある先生と１人の園児のやりとりを見てすぐにそう思った。出席を確認するとすぐ作業にとりかかった。大量の落ち葉を片づけるのは、時間に限りがあったので場所を割り当てられた。この日はとても風が強く、ほうきで掃いた瞬間、風に乗ってどこかへ飛んでいってしまうのであった。きりがない作業であった。単調な作業に飽き始めた時、私のそばに１人の男の子がやってきて、私の目を見てにこっと笑い、何も話さずにどこかへ行ってしまった。私は笑い返したのだが、恥ずかしがって私から離れてゆく。が、こちらを何回も振り返ってはにこにこと笑っている。こんなやりとりをしているうちに、その子がはいた落ち葉をゴミ箱に入れてくれるようになった。私はうれしくなった。子どもたちとの交流が無いと思っていたので、なおさらである。また、他の子どもと先生が遊んでいる姿、子どもと接する先生の姿を見て、子どもと接することが仕事である人の関わり方を直に見れたと思った。

思っていたよりも早く時間が過ぎ、職員室でお茶をごちそうになった。先生方と会話もでき、先生方の大学時代などをお聞きした。このように子どもとの交流は少なかったが、現場で働く先生方との交流があり、勉強になった。

②【附属松本小学校の「学習指導研究会」に参加した学生】

平成９年１月17日、私は附属松本小学校で行われた学習指導研究会に参加させていただいた。受付の手伝いの後、昼食をはさみ、授業・集会を参観した。私は昨年、信大ＹＯＵ遊サタデーに参加したため、学校での先生と生徒の関わり方は観ることが出来なかった。それで今回、研究会という形ではあるが学校内における、又、授業内における先生と生徒のふれあいを観るために、この行事への参加を希望した。

朝早く、私はスーツ姿で小学校に向かった。校門を入り中庭を見ると、すでに中学年の児童と先生が掃除をして見えた。とても寒い中、竹ぼうきで落ち葉らしきゴミを掃いておられた。児童と先生が笑顔で話しながら、しかし手は掃除に真剣なまま輪になっている様子に、なんだか自分の小学生の頃の朝掃除を思い出した。そんな私は「おはようございます。ご苦労様です。」と声をあげてしまった。すると子どもたちは照れ笑いをし、お辞儀をしてくれたのだが、先生は私に「おはようございます。早くからご苦労様です。」と直立でおっしゃった。私は少し戸惑った。私は、今、一生徒としてではなく、教師を志す一人の人間として見られているのだと感じたからだ。その時、一瞬、小学校の頃のいつも先生にまとわりついてお話を聞いたり、すべてを頼っていた先生との関係に区切りがついたという感じが頭をかすめた。そして、背筋がピンと伸びた。その後私は、受付開始時刻が迫ったため、所定の場所についた。先生が一人と、六年生の女の子が一人と私の３人で行う仕事だった。私たちの仕事は、お互い自分の役割をこなし、スムーズに進んでいった。来賓の方がみえない時には、３人でストーブにあたり話す時もあり、児童との接し方を生で見ることができた。相手の目をよく見、よく話を聞き、そして、小学生だと見下して話すのではなく、個人を尊重する話し方、物腰で接する。そんなことを感じた。また、この受付の仕事で感じたことはもう一つあった。私たちの先輩が子どもたちに“先生”と呼ばれていたことだった。昨年、教育実習に来てみえた先輩が、この研究会にも出席されていて、その先輩方を子どもたちは、「先生！！」と呼び、近付き、話をしに行くのだった。私のぎこちない会話なんかより、ずっと安心感のある先輩方の温かい話し言葉に私はまたショックを受けた。３年の差は大きいのだあと・・・。私が、教育実習に行く時には、こんなことが身に付いているのだろうか？再度訪ねたときに、こうして、子どもたちは慕ってくれるのだろうか？と、その光景に、不安を抱きながらも、強い憧れや期待を感じその場を眺めていた。そんな時間も過ぎ、いよいよ授業が始まった。私は国語の授業を２つ参観した。一つは六年生の授業の「きつねの窓」、もう一つは、二年生の授業の「おにたのぼうし」である。２つの授業は共に教科書を読み深め、友人と話し合い、発表するというものだった。しかし、その内容には多少違いがあった。二年生の授業では、子どもたちは主に、自分の意見をみんなに伝え、他の人の意見や先生の言葉から、更に自分の意見を表現し、言うことのできる空気があり大勢の児童の手が挙がった。六年生の授業では、自分の意見を戦わせたり、友人の意見を弁護する討論的な意見の交流が行われた。それは、まず、自分が話し合いをしたい仲間とのグループ、いわば小さな場での交流からクラスとい

う大きな場での交流へとつなげられた。教室は活気に満ちており、高め合いの学習光景がひろげられた。それは羨ましさをも感じる、やる気同士のぶつかりあいの面白い授業であった。２つの授業は共に素晴らしかった。それぞれの学年にあわせた教師の授業の組み方、話し方、教室の雰囲気作りと、ただ圧倒させられるだけであった。４５分という時間も、あっという間に感じられたのも、こんな素晴らしい授業を観ていたからだと思った。この後、私は全校による「音楽集会」にも参加した。ここ何年か聴いていないような美しい歌声だった。恥ずかしがる子どもなんて一人もいない。素晴らしかった。全校児童が一丸となっているのにも驚いた。感想、自分の考えなど、発表の場になると誰もが手を挙げ意見を言う姿があった。子どもたちは、各々の唱い方、表現方法を持っており、それらが尊重されているこの集会の進行の素晴らしさに感動してしまった。とても素敵な学校だな。そんなことを感じながら帰途についた。

私は、今日一日を忘れられないだろうと思う。この字数では書ききれないくらいの多くのことを学ばせていただいた。こんなに子どもたちが輝いているのは、もちろん子どもたちのパワーではあるが、それを支える教師の見えない力みたいなものがあるからだと思う。私は教師になるという夢を持ち、この大学に入学した。その本当の意味と重大さを身を持って感じた。私は、子どもたちと次に接する機会までに、教師へ、その前に素晴らしい一人間へ成長するように、毎日を大切にしなければならないのだと感じた。

③【附属松本中学校の「ミシンの整備と説明書作り」に参加した学生】

○教師の様子

先生が話される内容や、作業を見て、子どもたちが使いやすいように、そして子どもたちに大切に使ってもらいたいという気持ちがひしひしと伝わってきた。今回は、ミシンの糸調節もしたのだが、ボビンケースの使い方がいまいち徹底できなかったらしく、ミシンと同じボビンケースをボビンケース入れから持っていく方法から、糸調節したボビンケースをそのままミシンの中に入れておく方法にした。ボビンケースが変わると糸調節も変わり、いちいち調節しなければならない。これは、それを防ぐためのものである。ここで、子どもたちの使いやすさを追求している教師の姿を見た。コードのしまい方もコードを傷めないように、使いやすいように、色々と考えているようだった。これだけでなく様々なところに気を配っていることがわかった。

○今後の自分の研究課題にどう結びつけるか

研究課題への結びつけ方でなくなるかもしれないが、今回、この活動に参加してみて、陰の仕事というか、準備は大切であると、身をもって実感した。糸調節という作業は、服を作ったりする中ではそれほど重要ではないし、それほど時間を使うものでもない。しかし、糸調節できない中学生にとっては、これがどれだけ大事なものになるだろうか。というのは、糸の調子がおかしいと言っている生徒一人一人、一時間一時間見回っていたら、他の事を見回る時間がなくなってしまうし、子どもたちの実際の実習時間も少なくなってしまうだろう。まだ糸の調子がおかしいと言ってくる子どもはよい。糸調子を無視する子どもや、自分で気付かない子どもはどうだろう。途中で教師などが見なかったら、仕上がるまでわからないだろう。いくら一生懸命作ったとしても、その部分に自分が気付いたり、他の人に指摘されたりすれば、あまりいい気分ではないだろう。どんなに大切にしようと

いってもたかがしれている。これはとても淋しいことだ。それをなくすために、糸調節は必要なのだ。糸の調子で時間をとらずに他の事に時間を使えるようにという、教師の心遣いだと思う。そして、１人１人に十分目を向けられないので、その代わりというか‘陰の目’であると思う。実際には見ていなくても、教師は‘陰の目’で見ているというか、見なくてはいけないのだと思った。自分も、教師になったときは‘陰の目’でも生徒を見られるようになりたいと思った。そのために、実習や参観などで、様々な人の‘陰の目’を発見し、自分のものにしようと思う。

○感想

今回、この活動に参加してみて、ミシンの整備ということで、故障や、部品の点検をして終わるのだと思っていたが、糸の調節までしていることを知り、少し驚いた。こんなに細かいところまで気を配っていることを実感し、少し不安にもなった。しかし、参加したのが私１人だったこともあってか、家庭科の先生と思いのほかたくさんの話しができて、とても充実した時間であった。その中で、家庭科の教員になって良かったことや、家庭科の教員になったことを誇りに思っていることを聞いて、安心したというか、満足したという気持ちと、うらやましいという気持ちをもった。私は本当に家庭科が好きだし、一番人間にとって大切な要素を持っていると思う。それと同じ気持ちである人が教師をしていて、そのことを、今、実感しているというのは、頼もしいというか、私の心の支えになった。また、この次も、色々な事を得たいと思う。

④【長野県松本盲学校の「予備登山、本登山」に参加した学生】

私は、松本盲学校高等部普通科の予備登山と本登山に参加させていただきました。予備登山は６月２１日に美ケ原に登り、本登山は７月２２日、２３日に蝶ヶ岳に登りました。私がこの行事を選んだのは、学校をはなれての行事なので、子どものより日常の生活に接することができると思ったからです。思ったよりも子どもと話す機会は少なく、それは残念でしたが、学ぶことはたくさんありました。（中略）

蝶ヶ岳登山は登りが８時間（途中休憩を入れて）、下りが７時間半かかりました。登りは雨が降り、すべりやすくなり、予定よりも時間がかかりました。盲学校での登山は、普通の登山の倍以上の時間がかかるそうです。（中略）

予備登山でバディを組んだＡ君はよりかかるようにするので、交代で支えになりました。自分の足もとだけでなく、相手の足もとにも気をつけるというのは思いの外大変なのだとしみじみ思いました。本登山では私はＢ先生とバディを組みました（Ｂ先生は教員になられてしばらくして全盲になったそうです）。先生の足もとをみて誘導する仕事をやらせていただきましたが、難しく、ころんだり、すべったり大変でした。こうしてみると盲導犬は本当にかしこいと思います。少なくともＢ先生はマックス君（盲導犬）と一緒の時はころびませんでした・・・。

私には意識しないでまたぐような段差も、見えないとつまずく原因になると実感しました（町の歩道の段差をなくす。これは非常に大切なことです）。また、誘導する者は常に正確でなければなりません。気をぬくと右足を左足と言いそうになり（向かい合うと反対になるので）あわてました。私の小学校時代の登山では、先生方は登り下りよりも宿舎の中での方が大変そうでしたが（消灯時間を守らせるなど）、盲学校の生徒さんは、時間に

はきちんと寝て、そういうところではよいようです。

先生にとっても、生徒にとっても、私にとっても大変な登山でしたが、美ケ原で飲んだ冷たい牛乳の味と、蝶ヶ岳で朝４時に起き、みんなで見た朝日の美しさは一生忘れないと思いました。

目が見えないというのは一つのハンディではありますが、やろうと思えばやれないことは何一つないということを証明してもらったと思います。松本盲学校は生徒一人一人の能力を最高に引き出そうと努力している学校だと思いました。また、生徒一人一人が仲が良く、先生とも信頼の絆で強く結ばれている印象を受けました。

私は養護学校の教員になりたいと考えています。それぞれ、いろいろなハンディを背負って生きていかねばならない子どもたちですが、一人一人の可能性を信じていきたいと思います。他人から見ればハンディでも、本人の努力しだいで、また周囲の協力で、意識しなくてもよくなるのだと学びました。

⑤ 附属小学校の秋の遠足参加の学生

遠足に行って先生の大変さがわかったけれど、うれしいこともいっぱいありました。みんな「先生、先生」と集まってきてくれたり、おにぎりや果物をわけてくれる子や、敷物をかしてくれた子、一緒にボールで遊んでくれた子や、山道で拾ったきれいな葉をくれた子など、いろんな子がいたけれど、一番私が嬉しかったのは、「先生が３年生になって教生の先生で小学校にきた時、私達のクラスだったらうれしいな。」といってくれた子がいた事です。……
教育参加の授業に参加して、教員になりたいと強く希望する人が増えたのではないかと思います。私もその一人です。

⑥ 附属小学校の運動会の係活動参加の学生

教育参加という授業なのに、私はかなり運動会を楽しんできたと思う。子供達がなついてきてくれていろいろ話ができたし、ＰＴＡの綱引きに参加させていただいた。でもその中で感じたことがあった。子供達もいろいろタイプがあって、とても人なつっこく私にベタベタひっついてくる子もいれば、はにかみやさんもいたりして。…… 運動会に参加できて本当によかった。教師を目指してよかった。信大の教育にしてよかったとも思った。

○ 附属小学校の運動会の係活動参加の学生

この活動に参加して得たことは、子供と接し指導していくということは、私が思っていたほど楽ではない、という教訓である。今まではただ、やりがいがあるからだとか、子供達と接することができるからといった、表面ばかりを見た理由で教職を志望していた。しかし、今回の教育実習の参観、そして教育参加を経験して、「子供と接する」ということは、実はかなり難しいことであると少しわかったような気がする。…… 子供を教える際の裏の面を感じ取ることができたのが今回の教育参加で得られた大きな収穫であったと思う。しかし、半面、教職につき、子供達を教えて行くということに不安が生じたのも事実である。今までは単にやってみたいなぁという軽い気持ちであったのでなおさらである。今後は、本当に教職につきたいのか、教職につくならば、どのようなことに注意して子供と接し、指導して行くべきなのかを、自分なりにもっと「教える」ということの内面や、その怖さにも着目して考えて行きたい。それをこれからの自分の研究課題にすべきであると思う。自分の今すべきこと、考えて行くべきことが明確になったという点で、今回の教育参加が、自分にとっては有意義なものになることができたと私は考えている。

⑦　附属幼稚園のお誕生会参加学生

ハプニングあり、驚きありのひとときだったが、一番印象に残っているのは、子供達の歌った園歌である。親が我が子の成長した姿を見て感無量になるように、赤の他人である私にさえ、グッとくるものがあった。……　私は音楽専攻を受験するにあたって、ピアノやら声楽やらレッスンをしてきたが、そういう型にはまった音楽ではなく、音程がはずれていても、声が悪くても感動できる音楽というものがあるということに、あらためて気づかせてもらった。それが本来の音楽であるのに、そんな大切なことを頭におかずに、ただ楽譜にむかう今の状況を恥ずかしく思う。自分にとって音楽というものは一体何なのか、ということをもう一度あらためて考え〔させ〕られたことも、このわずか１時間弱のお誕生会の収穫だったといえる。世間で、「子供に教えられることが多い」といっているのが、いまいちよくわからなかったのだが、なんだか少しだけわかった気がする。

⑧　附属中学校の演劇の大道具作り参加の学生

当日はまず演劇部の顧問の先生へのあいさつから始まりました。部長さんらしき女生徒が……　出席をとり始めました。私達も生徒の方にあいさつを終え、早速劇に使用されるステージバック作りに取り組みました。……　最初は生徒の皆さんの方も何か話しづらそうにしていましたが時間がたつにつれて口数も増えてきて楽しい雰囲気の中で作業が進んで行きました。……作業の方は順調に進み、あっという間に時間が過ぎてしまいました。……　自分たちで作ったステージバックなどの道具の中で劇を演じるという演劇に今まであまり関心がありませんでしたが、今回参加させていただいて、興味をもったし自分たちの手で作り上げた充実感といったものは、貴重な事ではないかと思いました。それに私にも中学一年の弟がいるのですが、何か部員の皆さんが弟や妹のようにかわいかったです。この教育参加を通じて、改めて教員になりたいという願望がわいてきて、一生懸命それに向かって頑張ろうと強く決意しました。生徒が心を開いて話をしてくれる喜びも知ることができました。

⑨　県立松本盲学校の部活動参加学生

私は６月中旬から下旬にかけて松本盲学校のバレー部の活動に参加してきました。……相手の位置を確認しどこから攻撃がくるのか声を出すのです。不器用な私は、最初は声を出すのを忘れていましたが、だんだんとできるようになり上達したのが嬉しかったです。また、前衛の人がサーブを打つ時は、すぐ後ろにいる人が手を出して指示を出します。私も実際人に触れて緊張しながら指示を出しました。その時人の手のぬくもりはいいなぁと感じました。そして前衛と後衛のコミュニケーションがとても大切なことや、思いやりの気持ちが必要なことを肌で感じたのです。こうした触れ合いやコミュニケーションを大切にする盲人バレーならではです。こうして先生と生徒の間柄もとてもよく和気あいあいで、練習に５回参加させてもらいました。６月２７日に新潟の上越市で北信越大会があり見に行ってきました。ぜひ彼女たちが本戦で活躍する姿を自分の目で見たいと思いはるばるいきました。試合は緊張した雰囲気の中にも、仲び仲びとプレーしている彼女たちのはちきれんばかりの笑顔が見られ、本当に来て良かったと思いました。今年は“優勝”という最高のプレゼントを私はもらいました。“おめでとう”といって一人一人と握手をした時の喜びは、今でも忘れられません。

（２） ３年次生による「教育実習」を参観した１年生の反応

信州大学教育学部では、教育実習は３年次に、６週間、５附属校園で実施されてきている。教育学部生にとって教育実習は、４年間の学業生活のなかで最も大きな行事の一つであり、それを乗り越えることによって教職への眼を開く重要なカリキュラムとなっている。平成８年度に附属松本中学校で教育実習を体験した学生は、事後の教育実習レポートにおいて、「自分は肝心なときに泣けない人だと思っていた。ある意味で損な性格だと思っていた。だから、３Ｂでの最後の授業が終わったとき涙が溢れてきたので驚いた。その時自分は今までこんなにも授業に、そして教育実習に打ち込んできてたのかと思った。この教育実習が自分を“教育学部生”にしてくれた、というのは正直な実感であり、これは生徒の前に立ったからこそなのだと思う。」と述べている。

このような真剣勝負で取り組んでいる３年生の教育実習の様子から、その場に臨んで参観した１年生は、何を学び取ったのであろうか。次に学生のレポートを紹介したい。

①【附属松本中学校で数学の授業を参観した学生】

私は８月26日（月）に信州大学附属松本中学校で教育実習生の授業を参観させていただきました。私が参観したのは第２校時の１年生の数学の授業です。なぜ私がこの中学校の数学の授業の参観を選んだかというと、私は自分自身が小学校・中学校の時、数学の教育実習生の授業を受けたことがなかったので、自分が３年になって教育実習をするときにどうやればよいのか、先輩達の姿から教えられたり学んだりでき、今度は自分が教育実習をするときっと役に立つと思ったからです。実際授業を参観して感じたことなどを述べたいと思います。

まず授業が始まる前に教室に入って、席がコの字形になっていて、先生がきちんと全員の顔が見えるようにしてあるところに特徴を感じました。授業の少し前に小テストを行っていましたが、答えが分かっている生徒は集中して問題を解いていたのに対し、分からない生徒はきょろきょろしていて少し集中力がなかったように見えました。その小テストの時もそうでしたが、授業の始まりと終わりのあいさつが大変すばらしかったです。「お願いします」「ありがとうございました」と、大きな声ではっきりとしていました。私の出た中学はただ頭を下げるだけで、それが普通になっていたので驚きましたが、本来はこうでなければいけないと教えられました。

授業は１次方程式だったのですが、まず最初に一人一人に問題を解かせるのではなく、みんなの前で１つの問題に対して、いろいろな意見をみんなに考えさせて発言させるように実習生はしていました。その時やはり５、６人の分かっている生徒は手を挙げて意見を出していましたが、実習生は特定の子ばかり当てるのではなく、できるだけ多くの子を当てていました。生徒は当てられたときには「はい」としっかり返事をして、自分の意見を堂々とはきはきと述べていました。そして、自分の意見とその発言した人の意見が同じであるときは「同じです」、違うときは違う意見を述べるといったように、教室の中が活気づいているような雰囲気でした。そうしてみんなに意見を出させてからプリントを配り、一人一人に解かせると、最初の質問で手を挙げられなかった生徒もみんなの発言をヒント

にして考えられるせいか、白紙という生徒がいませんでした。このように最初の問題をじっくりやってから次の応用問題をやらせると分かってきた生徒が多いようで、たくさんお生徒が手を挙げていました。これは生徒から先生への、その日にやったことが分かったという意思表示だと感じました。

授業の最後には感想を書かせ、2人の生徒を指名してその感想を発表させていました。たった50分の授業でしたがいろいろな驚きなどがありました。授業全体を通して生徒達があんなに自分の意見を進んで述べるということに一番の驚きを感じました。授業中はみんなきちんと発言している人を見ているし、返事はしっかりしているし、すばらしい生徒達だったと思います。そのせいか学校全体が活気づいている、そんな様子でした。実習生も少し緊張している様子で、少し声が小さいかなとも思いましたが、授業もスムーズに流れていたし、時間配分もピッタリだったし、かなり先生らしかったという印象を受けました。

自分が教育実習をするまでには、あと2年以上あるけれど、今回見せていただいた実習生のような授業展開ができるように、この体験を忘れないようにしたいです。参観の後その実習生の指導者の先生のお話を聞きましたが、私たちの参観したクラスの中には数学について個人指導の必要な生徒がいたようなんですが、その子はその日きちんと自分で問題を解いていて、それを見て実習生はその子を当てて答えさせたそうです。それを聞いて、実習生というものはただ授業をすればよいだけでなく、生徒を気遣いながら授業を進めるという最も大切なものを忘れてはいけないということを改めて自覚させられました。

実習生の授業を参観するなんて初めてで、自分が授業するかのように緊張したけれど、こういう機会を持てるということはすごく貴重で、自分の為になると思います。このような体験ができて本当に良かったです。

②【附属松本小学校で国語の授業を参観した学生】

私がこの参観を選んだ理由は、3年生の人たちがどんな工夫をしながら授業を行っているのか？また、それを見て自分だったらどのようにするか？などと2年後に自分がする教育実習に向けて注意するべき点を考えておこうと思ったからです。

私が参観したクラスは、3年東組の国語の授業で“つり橋わたれ”というお話でした。その日の授業は、舞台は田舎の山で、谷川の上にかけられた今にも落ちそうなつり橋を主人公であるトッコという負けず嫌いの女の子が、田舎の子たちに“やーい、やーい、くやしかったらつり橋わたれ！”といじめられている場面について、教科書から読みとれるつり橋や谷川の景色、また、トッコや田舎の子達の心情を読みとるということをしていきました。

実習生が自分で作ったつり橋のかかった谷川の絵を黒板に貼り、それを使いながら授業を進めました。私もそのやり方に賛成で、子どもたちにとっては文字ばかりの授業はあまりおもしろくないと思うのです。だから絵や図を使いながらというやり方は、新鮮な感じがするし、不思議にやる気がわいてくると思うのです。また、授業の中で実習生がノートに自分の考えを書かせる場面がありましたが、その間に一人一人を見て回ってあげられるし、その中で子どもとコミュニケーションをはかれるから結構いいなあと思いました。

実習生について感じたことは先ず第一に、大きな声であること、そして、ゆっくり、はっきりと話しているということでした。そして、黒板に書く文字は大きく、濃く書いてい

ましたし、内容的なこととしては一方的な授業ではなく、質問をして子どもたちに考えさせ答えさせるという形式でした。そのようにすれば子どもたちもも考えながら授業を受けるから、眠くならないしいいだろうと考えました。

授業の後半に子どもたちについて気づいたことがありました。それは意見はあまり言わないけれどまめにノートをとっている子、反対にノートはあまりとらないけれど意見をバンバン言う子に分かれていて、前者の子はやはり眠そうなのです。もちろん意見を言わないから性格に問題があるとか、劣っているという色眼鏡で見ているわけではありません。しかし、私の考えでは将来、人の前でも堂々と自分の意見を言えるような人の方が、よほど常識はずれなことを言わない限り、いろんな場所で得すると思うのです。いくらすばらしいことを考えていても、口から発しなければそれは何も考えていないことと同じくらいの価値になってしまうのではないかと思うのです。だから今の内から自分の意見が言える子になってほしいのです。意見を言わない子の中でも全員が眠そうなわけではなく、なかには心の中で自分の意見をいっているのだろうなあと思わせる子もいます。だから私は今述べたことを2年後の実習でどうしていったらよいか、じっくり考えていきたい・

次に思ったことは、子どもたちは何か人と違ったことを見つけだしたいとしていることでした。そして、それを実習生に逆に教えてあげようとしているのです。私はすごいなあって思いました。エネルギッシュで、ものすごい探求心というのでしょうか？私たちもこうでなくてはいけないなと考えさせられてしまうほどでした。

こうしているうちに1時間はあっという間に過ぎ、私たちは教室を後にしました。その時、一人の女の子が“また来て下さいねー。”と手を振ってくれたのです。その子は授業中特に目立った子ではありませんでした。だけど休み時間になって、人なつっこい子なんだって事がわかりました。私はその時、教師とは本当に千里眼でなくてはダメなんだなということを感じました。さりげなく、だけど細かいところをすみからすみまで、重箱のすみをほじるように見ていて、子どもたちの長所や短所を見つけて、うまく才能をのばしてあげなくてはいけないから。

今日は心の底から、教師というものの大きな責任を感じることができました。そして、それ以上に“大きな教師になるぞ！”という気持ちがわきあがってきました。

③【附属幼稚園で保育を参観した学生】

附属幼稚園に着いて私が参観させていただいたさくら組の先輩方（実習生）に挨拶をしたときに、その中の一人の先輩が「自分たちの時は1年生のうちからこんな風に現場にふれる機会がなく、何もよくわからないままいろいろとやらなければならなくて大変だった。」とおっしゃていたので、今までは無かったこの良い機会をせっかく与えてもらったのだから、頑張ってできるだけ多くのことを肌で感じ、そして学んでこようと思いました。

私がまず最初に感じたことは、子どもたちのパワーでした。登園してくるなり、実習生を含め先生や友だちにじゃれついたり、私に「誰？何しに来たの？」と問いかけてくる元気な姿に、しばらく幼児と関わる機会が無かった私はなんだか新鮮なものというか、若さを感じました。また、この元気な子どもたちについていく体力の必要性も感じました。

少し離れた場所から子どもたちの様子を見ていると、年長さんのクラスだったからか、もうかなり自分のことは自分でできるようでした。そして、皆思い思いに動き回り、誰に

何をしてもらうでもなく、自分で遊びや不思議を見つけ出していることに気づきました。例えばトランポリンで遊んでいた子が発砲スチロールをちぎったものをばらまいて、一緒に跳んでみてその跳ね方をおもしろがったり、プールの排水溝に巻く渦に首をひねらせたりと、今の私たちとは少し違った観点からものを見れる子どもたちをすごいと思いました。自分にもかつてはこんな時期があったのだろうに忘れてしまいました。

幼稚園の様子は、先生方の大部分が男性の方で実習生の先輩方を除いてほかに女の先生の姿がほとんど見えないと言うのは、私の幼稚園時代と比べてとても不思議な感じがしました。また、先生方は子どもに対して必要以上に手を焼かず、子ども達の自由を尊重してのびのびとさせているようでした。

幼稚園には本当にいろんな子がいたけれど、友だちや先生にちょっかいをだしている子も、おしゃべりしてる子も、好きなように動き回ったり遊び回ったりしてる子も、一見皆好き勝手にただしたいことをしたいようにしているようにみえたりするかもしれないけど、本当はこれが今子どもたちがしている学びなのだと思いました。いろんなことに興味を持って、調べたり聞いたりして知識を増やしたり、周りの人たちとのつき合いや接し方を身をもって覚えていくこと、今この子たちはとても大切なことを学んでいる時期なのだと思うと同時に、この子どもたちの先生になることの責任の重大さに気づかされました。

また、この参観では最初は見慣れない私にちょっとおそるおそる近づいて来ていた子も、そのうちに自分がかいた絵を見せてくれたりと、全ての子からではないけれど私を受け入れてもらえたことがとても嬉しかったです。短い時間だったけれどこの経験は、将来私が教師になるならないに関わらず、きっとどこかで役に立つことだろうと思います。良い機会をどうもありがとうございました。

④　３年次生の教育実習を参観した学生

まず、教育実習を参観して思ったことは、やはり良かったなということである。なぜなら、実際教育学部といっても１年次は一般教養で専門的なことが少なく、教職に就くための学部という実感がいまいちわかなかった。しかし、実際に今回附属小の授業を参観して、先輩が“先生”と呼ばれているのを見て、やはり自分は教育学部なんだと再認識できたからだ。……小学生を教えるということにおいて、表面的なよさや、ただ単なるあこがれだけで教育実習にあたってはいけないのだということが、今回の授業を見て自分なりに考えて得た教訓の一つだ。真っ白なものにいろをつけていくということは、たい変難しいと思う。しかし、それだけにとルてもやりがいがあると思うし、また神聖な仕事だと思う。卒業した後教職に就くかどうか全く未定であったのだが、今回の教育実習を参観させてもらって、私の中に、あんがい教職もいかもしれない、もしかしたら向いているのかもしれないという思いがわいてきた。参観させていただいて、すごく自分にとっては良かったと思う。

（３）「第10回信大ＹＯＵ遊サタデー」に参加した１年生の反応

平成８年10月12日（土）、松本キャンパスで行われたＹＯＵ遊サタデーに１年生が参加した。自らキャプテンとなってペットボトルロケットやドラムパーカッションの講座を開く１年生が現れたことは頼もしい限りであった。多くの１年生はスタッフとなって３・４年生とティームティーチングを行った。この取り組みの中から１年生は何を感じ、何を学んだのであろうか。次にレポートを紹介したいと思う。

①【「学校では教えてくれないマル秘化学実験」に参加した学生】

私は、講座名からワクワクするような”学校では教えてくれないマル秘化学実験”のスタッフを担当しました。私が信大の教育学部を選んだのもＹＯＵサタがあるからという理由もあって、机上の学習だけでなく、子どもたちと触れ合えるこの絶好の機会を経験したいと思い意欲的でした。

本来、子どもが大好きな私でしたが、いざ子どもが集まりだすとどうやって声をかけたらいいのだろうと私自身が緊張してしまいました。「子どもたちはそれ以上に緊張しています。」という土井先生の言葉にはっとし、私がこんな気持ちじゃ駄目なんだと気付き声をかけました。不安な気持ちを打ち明ける女の子や、楽しみにして待っていたという男の子。そんな子どもたちを前にすると、成功させてやるぞと改めて思いました。

私の担当した実験では水酸化ナトリウムという劇薬を使うため、一にも二にも安全ということに注意しました。私が小学生の頃は先生がくどいほど大げさに注意するのがうっとおしく感じられたけれど、やはり指導する立場ともなれば大事な命を預かっているわけだから、その気持ちが今になってようやく分かった気がしました。そして、大きな瞳を輝かせてフラスコを見つめる子どもたちに「次はどんな色になるのかな？」と常に質問しながら、予測を立ててもらい、そして自分の目で確かめるという方法をとりました。自分の視点から物を見てしまえば、どんな結果になるかは知っているので、ついうっかりしていると子どもの想像力を奪っているのかもしれません。だから、子どもの視点から一緒に考え、驚くことが大切なことだと考えさせられ、勉強になりました。

こんなふうに新鮮な喜びを感じることができたのも久しぶりです。もっともっと、子どもたちと一緒にいたいと思いました。たった一回の二時間だけ一緒にいてもしゃべることは限られてよく分からないものです。そう思うと何だか空しいような気もしたけれど、この一回だけの機会でも触れ合えたことは大切な勉強だと思うようにしたいです。そしてたった一回だけの機会がよけいに私を子どもたちともっと一緒にいたいという思いを駆り立てているのかもしれません。絶対、教師になるぞという強い決心をしました。

今回もう一つ大きな収穫を得たことは、先輩たちの姿を直接見て、一緒に活動したことです。たった一つか二つしか年が変わらないのに、子どもたちの前で堂々としていて、うまく子どもの心をつかんでいました。私にはピカピカの教師の卵そのものに見えました。きっと、先輩たちは信念を持って物事に取り組んでいるから、頑張る姿がこんなにも心を打つのではないかと思います。来年は、私もこのようになっていたいと心の底から思いま

した。そして、どうせやるなら、先頭に立って、人が知ることのできない苦労を一緒に体験したいと思いました。こうした機会を確実にものにすることで、自信を高め、そしてさらに向上できるのではないかと思いました。

②【「とびだす紙しばい」に参加した学生】

私の参加した講座は「とびだす紙しばい」というものだった。８名の子どもたちが参加してくれたのだが、スタッフの方が多いという状況で、スタッフと子どもたちが交互に座るという形で円になり、会が進んだ。私の隣は、キャプテンと彩花ちゃんという小学一年生で、会の中では、その子どもとの会話が半分を占めた。彼女は、とても無口な子で、初めはただうなずくだけであった。そのうち、どんな紙しばいにするかと話している中で、例として、私の運動会の思い出を話した時、初めて、声を出して笑い、彼女との会話が始まった。私の母が幼稚園の教師をしていたこともあり、以前聞いていた、”同じ目線で話すこと”や”子どもの話が始まったら、聞き役でいつづけること。”というアドバイスを思い出し、その結果、家族のこと、学校のこと、住んでいるところのことなど、たくさんの話をすることができた。私は、子どもたちとふれあいの中で、子どもによって、その作業方法や話し方、年上の私たちにつくる距離というものは、まちまちであり、子どもたちの作ったその距離を超えないことの大切さも学んだ。彩花ちゃんについて言うなら、彼女の作業は、とても細かく、人の大きさなどは、他の人の描く１０分の１にも満たない大きさで、出来事を正確に再現させようとする子であった。また、めんどうみがよく、私や周囲の人に、絶えず不足のもの（色鉛筆など）はないかと聞いたり、落ちたものをすばやく拾ってあげたりした。しかし、しっかりとした面を持っているようだが、時間の経過とともに、「お姉ちゃん」と絶えることなく話をしてくれたり、私が他の子と話をすると、その中に入って、言ってみれば、一人じめしようとしたり、閉会式に行く途中など、手をつなぐことを求めたりと、甘えるような行動も見られた。その態度の変化に、驚いていたが、彼女に、８カ月になる弟がおり、彼女が二人姉弟の上の子であることを聞き、何となく分かった気がした。つまり、年下の弟に対するめんどうみのよさが現れているが、私もそうであったが、何かと一番上の子は、年上の兄や姉を求め、たまたまこの機会、短時間ではあったけれど、できた年上の私に、自分のお姉さんのイメージを写したのではないかと思ったのである。

今回、私は様々な体験を通して、自分なりに答えを出したつもりであった。しかし、いくつかはこれでよかったのだろうかという不安な点もあった。その一つとして、作品の制作進度についてである。彩花ちゃんは、人の数や状況を細かく再現しようとしたため、作品を時間内に仕上げることはできなかった。私は、彼女が思うようにさせてあげたかったため彼女のペースを見守ったが、他の友人が一つずつ作品を作ったのに、彼女だけできなかったというのは、彼女にとってどうだったのだろうか。結局、最後の発表の時には、発表はせず、席に座ったまま、みんなの発表を見守っていました。私は彼女に「家で続きを作って、お母さん、お父さん、じゅんくん（弟）に見せてあげてね。」と無理に発表に出すのはやめたのだが、製作の段階で、私のすべきことがあったのではないのだろうか、そういう不安がよぎったのである。ただ、会の終わったあと、嬉しそうに私の手をひき、彼

女のお母さんに私を紹介してくれたとき、何かほっとするものがあった。

会全体を通して、この字数では書ききれないことがたくさんあった。本なんかでは分からないことをたくさん学び考えさせられた。私自身も楽しんだのだが、とてもよい体験、そして学習となった。

③【「イラスト・漫画」に参加した学生】

私は幼い頃からいろいろな絵を描くのが好きで、私と同じような子どもたちと触れ合いたいと思ったのと、この講座は子どもたちと多く触れ合えると思ったことから「プロへの一歩！？イラスト・漫画体験パワーアップバージョンⅡ」に参加させていただきました。最初、スタッフの先輩から「子どもが、助けを求めるまで、手伝ったり、口をはさまないでください。子どもはすぐにうまくいかないと言うけれど、気にしなくていい程度なら、そのまま描かせて下さい。最後まで子どもたち自身の力でやり遂げさせて下さい。」と言われ、何か物足りないと思いましたが、子どもはよく集中して、自らどんどん描いていくので、こちらの方が圧倒され、充実した一日を過ごすことができました。子どもたちは自分なりに一生懸命、真剣に描いていました。飽きたり、疲れてくると人が描くのを見て回って、自分の絵に取り入れていました。また、今回は「パステル」という画材を使ってみようということで（パステルはそう使うものではないので、子どもたちは初めてだったと思う。）子どもは興味津々、積極的に使っていました。

私がこの講座を通して強く感じたのは子どもの自主性の重要さです。子どもたちは私が思うよりも、創造力があり自分で工夫しながら物事を進めることができるということ、また、教師はその手助けをするためにいるかもしれないということです。私は少々おせっかいなところがあり、すぐに口を挟んでしまうので、子どもが自由に遊べる（自由の中に秩序・ルールを教えることも教師の役割だと思う）、自由に創造できるような環境が作られるような教師になるよう努力したいと思いました。あと、大人と子どもの価値感の違いも感じました。大人には分かりにくい感情を感じられる人になりたいと思いました。

私は今回一人の男の子と特に仲良くなりました。（席が隣だったせいで）その子は、終わり際５分になって、大きな紙に絵を描きだしました。そして、恥ずかしそうに「いらないからあげるよ。」と言って、その絵をくれたのです。私が「人に物をあげるとき、”入らないから”と言うよりも”良くできたから”と言ってあげた方がもらう人は嬉しいと思うよ。」と言っても「いらないからあげる」と言って絵をくれました。後から先輩に話したら「子供は素直じゃないから」と言っていました。また、帰るとき（20番教室から出るとき）はぐれてしまい、私が探していたら、彼も私を探していたようで、私を見つけて、「バイバイ」と言って走っていきました。その先には彼のお父さんがいました。彼はお父さんを待たせて私を探していたのです。何か、とても嬉しくなって姿が見えなくなるまで見送ってしまいました。

今回この行事に参加して、初めて教師になりたいと思いました。（前はどうでもよかった。）このような機会を与えてくださった、先生や先輩たちに感謝します。どうもありがとうございました。また、ＹＯＵ遊サタデーに参加したいと思いました。

④ 信大ＹＯＵ遊サタデー参加学生

私が実際に子供達と一緒に何かをするといった体験は、このＹＯＵ遊サタデーが初めてであったので、とても緊張していた。開会式も終わり、各講座が開始された。私たちのやる「でっかいでっかいシャボン玉を作ろう」の講座では、班ごとに分けられ、４人で３人の幼稚園児を担当することになった。最初はどんなふうに接していいのか分からず、戸惑ってばかりいた……　３歳のともちゃんは上手にできず、あわぶく状態のものしか作れずにいた。私は「もう一回やってみようと」とさそい、何回もやったけれど、結局上手には作れなかった。ともちゃんも最初は頑張っていたがそのうちとてもつまらなそうな顔をするようになり、私は「どうしよう。どうしよう。」とただ混乱していた。その様子を見ていた先輩が、ともちゃんの手を石けん水で濡らして近くにあったストローでシャボン玉を作った。私はただ横でその光景を見ていた。先輩は、ともちゃんに「このシャボン玉とって」といって、宙に浮いたシャボン玉を指していった。私はなるほどと思った。そしてさすが先輩だなと尊敬しながら見ていた。ともちゃんの手の上には大きなシャボン玉がのっていてとてもかわいかった。私も先輩の真似をして「今度はこっちのもとって」とシャボン玉を作ってみせた。やっと、ともちゃんが笑ってくれた。さっきまでのつまらなそうな顔が、一転して楽しそうな顔に。私はとてもうれしかった。……　今はまだまだ、とても教師にはなれそうもないけれど、大学生活の中でいろいろな人と出会って、いろいろな価値観を認めあって、将来希望とする教師になることができたらどんなに幸せかと思う。そして今回のＹＯＵ遊サタデーは、私が厳しい教師への道をあきらめないと固く決心させてくれるものであり、またこれからの大学生活で頑張っていけるという元気と勇気をくれた講座であった。私は一生この日を忘れないと思う。

＜子どもとふれあう１年生＞

5．教育学部松本分室の１年生副担任教官による評価

（１）「教育参加」の意義の確認

吉澤文雄（教育学部 生涯スポーツ・野外活動）

「教育参加」が本年度から４年一貫教員養成カリキュラムの中に取り入れられたのであるが、学生たちが教育の現場をいろいろな角度から眺め、またそれに触れることが出来、現場の感触ひいては教育への関心をもつようになる意義は大きい。

また、松本キャンパスに在学している機会にこれを経験することは、４年一貫の初年度にこれをあてるということになる。松本キャンパスに在学するすべての学部の１年次生は、底辺の広い、内容の豊富な教養を共通に受けられるという伝統に支えられて生活している。

信州大学に入学して、これらの雰囲気の中で「教育参加」に参加する教育学部の学生たちが、教員という将来の職業をどのように捉えているか想像に難くはない。

さらに学生たちの出会った様々な出来事は、とても新鮮であり感動であったようだ。それは各人のレポートに書かれているとおりである。

附属松本学校園、長野県松本盲学校で、またＹＯＵ遊サタデーの中で、子どもたちと同じ高さで接し、心を通い合わせることを知り、そのために準備される現場の様々な苦労を知ることは、教育とは何か、どう展開していけばよいのか、など漠然とではあっても、学生の思いは確実に実践的な方向に向かっているように読みとれる。

そのような意味で、非常に重要な試みであり、また評価されるべきものであると考える。

担当される先生方は、大変ご苦労されていると思うが、より一層の工夫をされて、この「教育参加」が教員養成カリキュラムの中に定着されることを期待している。

（２）「教育参加」の評価方法について

寺澤宏次（教育学部　保健体育）

教育学部の１年生に「教育参加」をさせそれを単位として認定することは、教育学部の学生にとって非常に良い経験になると思います。しかし、この「教育参加」を行うに当たって若干の問題を感じます。それは、教育学部１年生が「教育参加」を行い、それについてのレポートを松本地区にいる教育学部の教官が読み評価しました。この評価基準は各教官に委ねられます。それ故、各教官によって評価のレベルが異なることが予想され、この問題を解決するために教育実践研究指導センターで松本地区にいる教育学部の教官が読み評価した学生のレポートを一定の基準の下に再評価がなされました。この評価方法を今後取っていくとすれば様々な問題が起こってくることが予想されます。例えば、「教育参加」し評価された学生がその評価に納得がいかなかったとき、その学生は松本の教官と教育実践研究指導センターの教官に相談に行かなくてはならなくなるかと思います。このようなことも考えられ、できれば、評価の簡略化を行った方が良いかと思います。即ち、松本の教官か或いは、教育実践研究指導センターのどちらかで評価を行うといったことです。このような方法を採れば、学生にとっても解りやすくまた理解もされ、この「教育参加」が浸透していくのではないかと思います。

（3） 学生の真剣な参加態度

上條　厚（教育学部　国語教育）

わたしは松本において、1年次生の「教育参加」の授業の面倒をみた教官として、述べたい。「教育参加」は学生たちに、多少とはいえ、成長をもたらすものであったと考える。

始めに学生たちの提出したレポートより見よう。学生たちは自分たちが感じたことを率直に述べ、そして教師になろうという意欲を強くしたことを、多くの学生が語っている。

盲学校の行事に参加したある学生は、全盲の人は相手の識別を相手の手に触ることよって行う（記憶が不正確かもしれないが、間違っていたらご容赦願う）という意味のことを言い、自分の担当した生徒が、1度触っただけで自分のことを覚えてくれたと、新鮮な驚きをもって書いている。幼稚園の行事に参加したある学生は、幼稚園の物は何もかもが小さくできていることを、――当たり前と言えばそれまでであるが、それに気付いたことを、新たな感動として報告している。小学校の学習指導研究会に参加した学生は、手伝いの児童がてきぱきと仕事をこなしていくことに感心し、その様子を伝えている。自分が教師になったらどのようにしたい、またどうあらねばならぬということを書いた学生も数多い。このように教育現場を見、子供と接することは、将来への自覚につながっているのである。

小・中学校の教育実習の参観には、わたしは学生と一緒に参加した。そこで感じたことを次に述べよう。小学校の方の参観は、当日の参加学生が、開始前と終了後に、全員玄関前に集合するというやり方であった。2日間行った参観の第1日目にわたしは参加した。

当日、まず学生を集合させることから始まった。開始前の集合時間が近づき、学生たちが集まった。50名ほどであった。服装はあらかじめの注意に従い、普段の授業の時よりもきちんとして、参観にふさわしいものであったが、態度の方は普段と変わりなかった。態度が普段と変わらないということはつまり、授業を真剣に受けようという学生は全体の中で少数、そしてほっておけば、表現は悪いが、烏合の衆になってしまいそうな状態だということである。開始前の会が始まり、附属小の先生の挨拶や注意の時にも、私語をする学生がいるという状態であった。そうして学生たちはそれぞれの参観場所に散らばった。

その後参観が終了し、集合の時間となった。授業の終了が少し遅くなる組があったり、教室までの遠近の関係もあり、学生たちはばらばらに戻って来た。それで全員が集まるまで待ったが、その場には何かしら開始前とは違う雰囲気が流れていた。学生たちは、特にだれに指示されるわけでもなく、さっき並んだ場所に行き、整然と並んだ。私語はだれもしていなかった。だれかが隣の学生に何かしゃべろうとすると、別の学生がそれを制した。そしてそこは全くの静寂となった。静寂の中、終わりの会が行われた。

参観の前と後の学生の様子を見ていて、これほどの違いがあった。授業参観を通して呼び起こされた学生たちの自覚が、こうしてその場を厳粛にさせたのである。

YUO遊サタデーのときの学生の様子はどうだったかというと、こちらも集合から解散まで皆きちんと行っていた。「教育参加」を通じ学生の多くが教職への自覚を高めたと信ずる。

仄聞では教員採用試験の対策ばかりを行う大学があるという。そういう学生は試験の時だけ有利であろう。信大生はそういうのと違うが、優秀である。教員採用試験の合格者増加を願ってやまない。（「教育参加」に甚大なご協力を賜った各位に、衷心よりお礼申し上げる）

（４）豊かな情操と高い知性への自覚

中村正人（教育学部　理科教育）

「教育参加」を体験した学生のレポートを読んで、先ず学生が真摯に参加し、出来る限り子供達と触れ合おうと努力した様子がうかがわれ、大変良い印象を受けた。大学１年の時に、子供達の心とふれ合い、共感することができた体験は、将来教育に携わる学生にとって宝になることと思われる。

次に、学生達が将来教師になり、質の良い教育を実践するためには、豊かな情操を養い、高い知性を身につけなければならないが、その必要性、重要性への自覚を一層深めている様子を読みとることができた。１年次における「教育参加」は大変有意義であったと思う。

（５）「教育参加」雑感

折口　築（教育学部　生涯スポーツ・野外活動）

はじめに、副担任でありながら、「教育参加」の各プログラムに直接参加、参観することもなく、また十分なお手伝いもできなかったことをお詫び申し上げる。

「教育参加」は、「臨床経験」の授業として開設され、その目的は、１年次生が子供・教師・学校への理解を深め、教育への関心・意欲を高めることである。学生諸君が提出したレポートを読んだ限りでは、総じてこの目的を達成していると言えるのではないかと思う。しかし、今後改善していくべき点もあると思われるので、学生諸君のレポートや生の声を踏まえ、私が感じた問題点を次に述べたいと思う。

まず、学生諸君のレポートの中に、「大学の授業と重なってしまって参加したいプログラムに参加できなかった」との記述が見られた。これは、やむを得ないことかもしれないが、できれば本人の希望のプログラムに参加させてやりたい。そこで、本人の希望するプログラムが大学の授業と重なった場合、大学の授業を「公欠」扱いにできないだろうか。「公欠」扱いが無理であれば、それに準じた扱いをしてもらえるような、何らかの手だてが必要なのではなかろうか。

次に、「子供達と接することができると思って参加したが、ほとんど接することがなかった」というプログラムもあったようである。この問題は、各プログラムの内容が十分学生諸君に伝わっていなかった可能性もある。学生を受け入れていただく附属学校園、長野県松本盲学校の先生達の御苦労は大変だと思うが、プログラム作成の段階でもう少し考慮していただきたいと思う。プログラムは多いに越したことはないが、内容を吟味し、精選することも必要である。

レポートの内容の項目に「今後の自分の研究課題とどう結びつけるか」という一項目があったが、問題意識を持っている学生はしっかり書いているものの、全く書いてない学生も見受けられた。問題意識を持っていない学生は、この「教育参加」の授業を通して問題意識を持ってくれたらよいのであるが・・・・。

（6）「教育参加」への期待と課題

山崎達朗（教育学部　英語教育）

何事も初年度は試行錯誤が多く、心身共に大変であるが、「教育参加」もその例外ではなく漆戸先生、土井先生、東原先生を始め、附属松本校園、県立松本盲学校の関係者の皆様も随分ご苦労なさり、成果をあげられた。一年を振り返ってそのご努力に敬意を表したい。さて私も松本分室の教官として教育参加の一部の授業、行事を拝見させて戴いたが、気の付いたことを多少記しておきたい。

英語教官という立場上、三年次生の英語の教育実習を一年次生と一緒に参観したが、個性を生かし努力した立派な授業であった。一年次生にも感想を聞いたが、ショックに近い感銘を受けたらしく、盛んに「あんな授業が自分にはできるのだろうか?」と二年後に不安を募らせていた。大学入学がゴールであるかのような学生が多い中で、このような身近な先輩からの刺激は特に意義があるのではないだろうか。

教育参加の講義も定期的に行われ、それぞれの時期に必要な事が説明あるいは報告されたわけだが、私は内容そのものよりも学生の授業態度が大変気になった。私語である。群集心理は他の所で発揮してもらうことにして、これは歴とした授業のはずである。ひそひそ話が数百まとまれば授業妨害である。私語は全国的な傾向だというが、自慢にも何にもならない。授業はショーではないし、教官はエンターテイナーではない。おもしろいものや楽しいことにしか耳を傾けないようでは将来の先生の卵としては不見識である。授業には目的意識と意欲をもって参加する自覚を促したい。

「YOU遊サタデー」は大変意義があった。地域社会の子供達との触れ合いは学生にも教える立場の良い経験になったし、ここでも主催側の先輩たちのきびきびした指導が一年次生にはお手本となったと聞く。最初全体会の大教室で不安げだった子供達が、各教室に分かれ学生の指導の下、何か一つずつ学んでくる。そして再び全体の発表会では満面の笑みとともに作品をかかえた子供たちの姿があった。後で学生のリポートを読ませてもらったが、子供達との共同作業の中で得ることは多かったようだ。子供達の反応に一喜一憂したこと、小さい子達の頑張りに感心させられたこと等、学生自身にも他人への思いやりや教え方の工夫などに成長の萌芽が感じられた。この行事は成功裏に終わったが、課題もある。子供たちの人数に各教室ばらつきがあり、学生が手持ち無沙汰になったクラスもあったし、必修単位の為にやむを得ず物理的空間を占めただけという例もあったようである。しかし、来年も来てみたいという子供も多く、今後の発展を大いに期待される行事である。

教育参加の「メニュー」は千差万別で、学生と受け入れ側のニーズに合わせて工夫された。運動会の準備、クラブ活動の補助、遠足の付き添い、掃除、学指研の手伝い、と多種多様であり大いに意義のあることであった。ただし今後の課題として、なるべくなら単なる肉体労働のものより、学生と生徒が触れ合えるような項目が増えることを望みたい。教育参加もまだスタートしたばかりで、主催者側のセンター所属教官のご苦労も並大抵ではないと推測されるが、未来の教師のためにこのプログラムを大きく育ててほしい。やり方次第でどんな育ち方でもするところは「たまごっち」と同じかな。そう簡単にリセットボタンだけは押さないようにしよう。

（7） 第３の眼

徳井厚子（教育学部　国語教育）

今回はじめての試みの教育参加が行われた。私自身教育実習生として教壇に立ってから何年かたつが、はじめて教育の現場に立った時の緊張、感動は今でも忘れられない。不思議なことにそういう体験はいつまでも覚えているものだ。

みなさんにとって今回の教育参加は「プレ教育実習」ともいえるべきものであったかもしれない。みなさんのレポートを読んでいると、そんな緊張、喜びが伝わってくる。参加するまでの不安、戸惑い、そして学生たちに「お姉さん、お兄さん」と呼ばれたときの喜び、担任の先生の大変さ等、行事を通してみなさんの心境が変化していく様子がよみとれる。ひとりの内気な学生が次第に心を開いていく様子、自分自身が小学生たちに対してすこしずつ心を開いていく様子等がかかれ、様々なインパクトをこの体験から得たのではないかと感じた。

今回の皆さんの立場は「教師」でもなければ「学生」でもない。いわばその中間にあたる教師と学生のミディエーターのような役割であろう。だからこそ、教師や学生とは異なった第３の視点から観察することができたのではないかと思う。このような機会は教育実習とはまた違った貴重な体験ではないかと思う。教室内外の活動を教師でもなく、学生でもなく、第３の立場で観察してみる。普段の日常生活の中ではなかなか体験できないことであるが、実はこの第３の眼が大切なのではないかと思う。きっと教師、学生の立場とは異なったものがみえてきたはずだ。みなざんのこれからの学生生活の中で、また教壇に立ったとき、この第３の眼を忘れないでいてほしいと思う。

6．日本教育大学協会研究集会での研究発表

平成８年10月５日（土）に福島大学教育学部において開催された平成８年度日本教育大学協会研究集会において、「教育参加」についての研究発表を行った。以下に掲げるものは、発表内容をまとめて日本教育大学協会編『研究発表論文集』（1997年３月刊行）に投稿したものである。編集委員会から転載の許可が与えられたので以下に掲載する。

臨床経験の授業科目「教育参加」の開設

信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター長（教授）　漆戸邦夫
信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター助教授　土井　進
信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター助教授　東原義訓
信州大学教育学部附属松本小学校副校長　小林賢一

１．本稿の意図

本稿は、信州大学教育学部において平成８年度に開設された「教育参加」という臨床経験の授業科目の開設経緯と初年度の実施状況を通して、教員養成カリキュラムにおける「教育参加」のねらいや意義を明らかにするとともに、臨床経験の授業科目を実施していく上での問題点と今後の課題について考察することを目的としている。

２．「教育参加」の開設経緯

(1)　教育学部としての４年一貫カリキュラム

信州大学では、平成６年度末をもって教養部は廃止された。それに伴って、教育学部の組織改革と４年一貫を目指したカリキュラム改革が行われることになった。組織面では平成７年度から教員養成を目的としない生涯スポーツ課程が発足し、教育学部の目的も「学校教育等に関する専門家を養成するための学芸及びこれに関連する分野の教育、研究を行う」(1)ことへと改められた。一方、キャンパスが４つの地域に分散している本学の事情により、教養部廃止後も１年生は全員これまで通り松本キャンパスに留まることになった。そのためキャンパスが長野市にある教育学部は、４年一貫カリキュラムを実現していくために、教官が松本キャンパスに出向いて１年生に専門科目を開講することになった。

(2)　「臨床経験」という新しい枠組みの設定

今日のさまざまな教育問題は、教師の資質や実践的指導力の欠如と深くかかわっていることが指摘されている。そのため教員養成学部においては、学生の実践的指導力の基礎を培うカリキュラム開発を行うことが重要な課題となっている。この課題に立ち向かうためには、学生にとって教育実習だけが子どもたちと触れ合うことのできる唯一のカリキュラムとなっている現状を改革し、今後、学校教育現場における教育実習のみを実践的指導力養成の場として捉えるのではなく、広くさまざまな教育機関での豊かな教育経験も実践的指導力養成のためのカリキュラムとして取り込んでいくことができる新しい授業の枠組みが要請される。このような現状認識と将来展望に立って、教育学部教授会は、

専門系科目の中に「教科に関する科目」「教職に関する科目」「卒業研究」と並ぶ新しい授業科目の枠組みを設定し、それを「臨床経験」と名づけることに決定した。

これに伴って従来「教職に関する科目」に位置づけられてきた「教育実習」（６単位、３年生）と「教育実習事前・事後指導」（１単位、３年生）が、平成７年度から臨床経験の枠組みに移行されることになった。そのため当初は教育実習という名称が臨床経験という名称に変わったのではないかと受けとめられることもあった。しかし、平成８年度から「教育参加」（１単位、１年生）が追加されたことによって、臨床経験という新しい枠組みに対する理解も次第に深まってきた。

平成８年度の臨床経験の単位数は３科目を合計すると８単位となり、これは卒業に必要な１２９単位の６．２パーセントにあたっている。平成７年度以前は「教育実習」が４単位であったため、事前事後指導の１単位を加えても、卒業に必要な１３６単位の３．６パーセントを占めるに過ぎなかった。ここに臨床経験を重視する教員養成カリキュラムへと改革されてきていることがうかがわれる。

(3)　「信大ＹＯＵ遊サタデー」の成果から「教育参加」の開設へ

松本キャンパスで開講する新しい専門科目についての協議が、平成７年９月から教務委員会を中心に活発に行われた。ある専攻が担当する案、教科教育研究委員会が担当する案、教務委員会が担当する案などが検討されたが、いずれもある教科の授業内容に偏ってはいけない、教科教育委員会は授業を担当するような任務を負っていない、構成メンバーが入れ替わっていく委員会組織ではなく、責任を持って授業を開設できる機関が望ましいなどの理由で退けられ、附属教育実践研究指導センターが担当するのが望ましいという流れになってきた。こうした経緯により、学部長からの委嘱を受けて附属教育実践研究指導センターが新しい授業科目のシラバスを作成することになった。

シラバスの作成案に当たって最も配慮したことは、実践的指導力を狭く「教壇に立って授業する力」と解し、教育実習に直接結びつく「教育実習事前・事後指導」のような内容にならないように工夫することであった。何故なら、このような狭義の教壇実習を実践的指導力の目標に設定すると、１年次から授業を参観することや教育実習を学年を追って段階的に分散するなどの方法面に関心が行き、従来の教育実習の枠から抜けられないからである。「従来の教育実習は主催者の側に主導権がおかれすぎ、学生たちの現実的な立場や意向を生かしにくい形になっている」(2)という指摘があるが、学生があまりに受け身の状態におかれざるをえないような教育実習からは、今求められている実践的指導力を持ったスケールの大きい教師は生まれてこない。「教育参加」は、これからの学校教育を創造的に担っていくことの出来る意欲と力をもった教師を輩出できるような内容を持ったものにしたいと強く願った。

実践的指導力にはさまざまな内容が考えられるが、大学１年生の段階においては何といっても、子どもの心に寄り添うことのできる共感力を培うことが基本であると考えた。子どもの心と同苦し、共感することができるという人間的資質は、教師としての実践的指導力の基盤をなすものといえよう。そして、このような人間的力量を形成してゆくには、実際に子どもと関わる場面や教師が教材開発の苦労をしている場面に助手として参加させてもらうなど、子どもや教師と触れ合う実践を通して学ぶのが最も効果的であり、また、実践を通してしか身に付かないと考えられる。このように考え、附属学校園、長野県松本盲学校にご協力をお願いする上で大きな拠り所となったのが、平成６年９月以来１０回にわたって実践してきた「信大ＹＯＵ遊サタデー」の成果であった。(3)

３．「教育参加」の初年度の実施状況

(1)　１年生の高い教職志望

教育学部に入学してきた学生は教職への強い志望を抱いている。１年生３１１名を対象に平成８年４月に調査した結果では、(1)「教職にしか就職は考えていない」が４２．７パーセント、(2)「主として教職志望だが、条件がよければ会社などでもよい」が２３．７パーセント、(3)「教職でも会社・官庁などでも、どちらでもよい」が９．３パーセント、(4)「主として会社・官庁志望で、それらがダメの場合は教職でもよい」が６．７パーセント、(5)「会社・官庁などにしか就職は考えていない」が１．２パーセント、(6)「大学院、自営などのつもり」が４．５パーセント、未回答が１１．５パーセントであった。(1)と(2)を合わせると６６．４パーセントとなるが、これは１年生の段階では教職志望の学生が多いことを示している。というのは、これと同じ調査を過去４年間、３年生が教育実習に入る前と後に実施してきているが、(1)と(2)を合わせた割合はいずれも６０～６２パーセントである。３年生の割合と比べて１年生の６６．４パーセントという数字は高い価であり、ここに教育学部に入学した１年生には、教職の専門職性を研鑽して教員になっていこうとする真摯な思い込められていると考えられる。

(2)　学年が高くなるにつれて低くなる子どもに接する自信

「教育参加」の授業が果たしてどれだけ実践的指導力の養成に有効であるのかを明らかにする一つの視点として、平成８年４月に１、２、３年生に、「あなたは、ボランティアとして子どもたちの遊びのリーダーをする自信がありますか？」というアンケート調査を実施した。この調査の結果を「大変自信がある」と「やや自信がある」を合計した割合と、「全く自信がない」と「やや自信がない」を合計した割合で示すと次の通りであった。まず、自信がある方では、１年生が４７．０パーセント、２年生が４２．９パーセント、３年生が３４．４パーセントと学年が進むにしたがって減っていった。反対に自信がない方は、１年生が２２．３パーセント、２年生２２．４パーセント、３年生３６．０パーセントとだんだんと増え、子どもとの心の隔たりは学年が高くなるにしたがって開いていく傾向が見られた。従来教育実習を終えた学生たちの間から３年生になってようやく教育学部らしいことができたという声が聞かれたが、３年になるまで子どもと接する機会がないと子どもや教職への関心が薄らいでいくのもうなずけるように思われる。

次年度以降もこの調査を継続し、１年次に「教育参加」の授業を通して子どもたちとの触れ合いを体験したことが学生たちの子どもに対する意識や態度に変化となって現れてくるかどうか、注目していきたいと考えている。否、学生たちの意識や態度が変わるような有意義な「教育参加」となるように授業改善に努めていきたいと考えている。

(3)「教育参加」の内容と方法

教職への志を抱いた学生の期待に応えるために、我々は、(1)附属松本学校園、長野県松本盲学校で行われる教育活動に参加して子どもと触れ合うとともに、教師や学校の様子を参観する、(2)附属松本学校園で行われる３年生の教育実習を参観することによって、２年後への自己の目標をもつ、(3)信大ＹＯＵ遊サタデーに参加することによって、子どもたちと触れ合うとともに先輩学生の子どもへのかかわり方を身近に学ぶ、という３種類の臨床経験の場を提供することにした。このような場において学生たちが子ども理解、教師理解、学校理解、そして自己理解を深めることができれば、それが４年間にわたって教科専門科目、教職専門科目、教育実習等を履修していく基礎力となるものと考えたのである。

表１．各学校で学生が参加した教育活動例

	学生が参加した教育活動例	参加人数
附属幼稚園	春の遠足、鯉のぼり運動会、６月誕生会、７月誕生会、９月誕生会、１０月誕生会、秋の運動会、幼年教育研究会前日準備、幼年教育研究会、落ち葉掃き	８７名
附属松本小学校	運動会前日準備、運動会、秋の遠足、学習指導研究会	９０名
附属松本中学校	社会科資料の整理、英語事前準備、英語ティームティーチング、木工室の整理、ミシンの整備、ペンキ塗り、プール清掃ワックスがけ作業、市中球技大会応援指導、市中球技大会写真撮影、演劇の大道具作り、バスケットクラブ指導、バレーボールクラブ指導、「自主の時間」助言、陸上クラスマッチ、松本城清掃、リサイクル運動、先輩の話、登山付き添い菊用土づくり、写生会引率補助、吹奏楽指導補助	１０６名
長野県松本盲学校	小学部秋の遠足、小学部スケート教室、中学部秋の遠足、中学部バレーボール指導、中学部柔道指導、中学部・普通科合同体育、普通科作業学習、普通科スキー教室、予備登山・本登山	２７名

松本キャンパスに隣接する附属幼稚園、附属松本小学校、附属松本中学校、ならびに松本キャンパスに近い長野県松本盲学校の全面的なご理解とご協力により、学生が参加させていただける教育活動を４校園あわせて９３も提示していただいた。この中から学生が選択し、実際に「教育参加」が行われた教育活動を示したのが表１．である。学生たちは「生徒」としてではなく、また「先生」としてでもなく、教育について学ぶ「学生」として、学校の教育活動の中へ温かく受け入れていただいている。このような学校側の温かい姿勢に接して、学生たちは威儀を正している。

一方、８月２０日～３０日に行われた３年生による教育実習を参観した学生は、附属幼稚園７名、附属松本小学校８７名、附属松本中学校６１名、合計１５４名であった。また、１０月１２日に松本キャンパスで行われた「信大ＹＯＵ遊サタデー」に参加した学生は１４３名であった。

(4)　「教育参加」を経験した学生のレポート

学生たちが「教育参加」の授業に期待しているものは３つあるように思われる。第一は「子どもとの触れ合い」であり、第二は「教師の仕事に触れる」ことであり、第三は「学生の目で学校教育現場を参観」することである。次に子どもとの触れあいを通して学生が学んでいる事例を２つのレポートによって紹介する。。

まず、附属松本小学校の秋の遠足に参加した学生は、「１年生の子をおんぶして学校の近くまで連れてきたことです。これは正しいことなのでしょうか。なぜその子だけ？私は遅れてもその子と一緒

に、その子の足で最後まで歩かせるべきだったと今後悔しています。たった１度の遠足でしたが、子どもたちと一日を共にし、多くの事を学びました。（中略）この遠足で私は私の力を知り、もっともっと専門的なことを勉強していかなければと実感しました。」と述べている。

次に、「大きなシャボン玉を作ろう」というＹＯＵ遊サタデーの講座に参加した学生は、「私たちは喜びで胸がいっぱいだった。子どもがこんなにも見ていて、そして一緒にいてあきないと思ったことはない。この日はじめて実感した。３人の子どもを４人がかりで相手をするのも並大抵のことではないとつくづく思った。（中略）私は大変な仕事を好き好んでえらんでしまったのだなと感じた。毎日、子ども一人一人の成長をこの目で確かめながら過ごす生活を。そして、子どもの成長の手助けをしたくて、教師という仕事を選んだということを。今はまだまだとても教師にはなれそうもないけれど、大学生活の中でいろいろな人と出会って、いろんな価値観を認めあって、将来希望とする教師になることができたらどんなに幸せかと思う。そして、今回のＹＯＵ遊サタデーは私が厳しい教師への道をあきらめないと固く決心させてくれるものであり、また、これからの大学生活で頑張っていけるという元気と勇気をくれた講座であった。私は教師とは大変な仕事ではあるが、その分やりがいのある仕事であり、やはり私にとって憧れの仕事であると再び思い知らされた日であった。」と述べている。

４．問題点と今後の課題

初年度の「教育参加」の実践を通して明らかになった最も大きな問題点は、大学の授業と「教育参加」の活動が重なる場合があるということである。重なった場合は大学の授業を優先するように指導したので、学生からは参加したい活動があっても出れないという不満の声が聞かれた。この二重履修の問題点を解決していくためには、学生が夏期休暇中である８月、９月に参加できる教育活動を増やしていくこと、社会教育施設のご協力を得て、土曜、日曜日に子どもたちを対象に行われている教育活動に参加させていただくなど、新たな道を開拓していくことが今後の課題である。

注及び引用文献

(1)　信州大学教育学部規定第１条　平成８年度信州大学教育学部学生便覧

(2)　佐藤三郎　教育実習の改善と附属学校の役割　平成６年度筑波大学教育学系研究促進費研究報告書　総合大学における教職教育の研究（13）　平成７年３月

(3)　「信大ＹＯＵ遊サタデー」の成果について論じたものには、次の論考がある。

土井　進　「信大ＹＯＵ遊サタデー」のもつ応用教育実習としての意義　信州大学教育学部教育実践研究指導センター紀要第３号　pp. 109-118　平成７年５月

土井　進　教員養成学部における実践的指導力の養成－「信大ＹＯＵ遊サタデー」での体験的学習の指導を通して－　関東教育学会紀要第２３号　pp. 39-46　平成８年１１月

7．「教育参加」について報道された新聞・雑誌記事

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

Web上では非公開

あとがき

本学部では、平成８年度の「教育参加」の開設により、１年次で幅広い教養科目を学びつつ「教育参加」を経験する。２年次で教職専門科目や教科専門科目を深く学び、それをもとに３年次で「教育実習事前・事後指導」ならびに「教育実習」を経験し、教育の理論と実践の両面にわたる理解を深めていく。そして、４年次においては卒業研究に取り組みつつ、障害児教育専攻の学生とその他の希望学生が養護学校での「教育実習」をする、という４年間にわたる「臨床経験」のカリキュラムの流れができてきたように思われます。

これらの「臨床経験」のカリキュラムとは別に、平成９年度から「教育実習」を既に履修した４年次生の希望者が、長野地区の附属学校（小・中・養護）に教育ボランティア（仮称）として参加していくことになりました。これには単位の認定はありませんが、教職に就く目標が定まった学生にとっては、貴重な臨床経験の場になることと思われます。

また、「信大ＹＯＵ遊サタデー」も単位の認定はありませんが、１年生から４年生まで学生が自由に参加して自己の力量形成を図ることができる場となっています。

このような「臨床経験」のカリキュラムとその他の教育経験の場を活かして、学生達の実践的指導力の基礎が養成されていくことが期待されます。

唐澤富太郎（東京教育大学名誉教授）著『学校週五日制時代の女性教師』（平成９年３月、東京法令）では、100年前に日本女子大学校の創設に奔走し、実践倫理講義において、「第二の維新を持ち来たらすものは将来の女性である」というように女性の使命感を覚醒してやまなかった成瀬仁蔵の教育理念と教育実践が取り上げられています。また、日本教育大学協会第一常置委員会が行った「教員の資質向上に関する調査報告書」(1996)では、教師に必要な人間的資質や能力として、「教育者としての使命感」をあげた大学教官が581名中247名(43％)もあったことが報告されています。

「教育参加」という授業が、附属松本学校園、長野県松本盲学校、そして、国立信州高遠少年自然の家とリンク（連携）することによって、「教育者としての使命感」を触発する契機になるならば、望外の喜びであります。関係協力機関の先生方と連絡をとりあって、「教育参加」の改善・充実に努めてまいりたいと思います。

最後に、この報告書をまとめるに当たり、年度末のお忙しい中、原稿をお寄せ下さいました関係協力機関の先生方に心から御礼申し上げます。

土井進（附属教育実践研究指導センター）

平成８年度
臨床経験の授業科目
「教育参加」の開設と学生の反応

平成９年３月31日　発行
編集・発行　信州大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

〒380　長野市西長野６－ロ
TEL/FAX　026-237-6127
TEL/FAX　026-237-9296

HomePage : http://cert.shinshu-u.ac.jp/
E-Mail : doisusm@gipnc.shinshu-u.ac.jp
higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp